

DS796.S25 S656y 1941:2

昭和十六年九月三十日

上海租界に於ける文化活動の状況(二)

出版・言論・放送・映画・演劇調査

上海市政研究會

Sinolog. Seminar



42544410,7

序

本調査は上海市政研究會第五委員會に於ける討議の結語を一先づ基礎資料の形に於て取纏めたものである。固より上海文化機講に就いての概括的鳥瞰圖にすぎず、且粗漏の點多々あるを免れないと、租界に於ける文化諸活動の一般情況を知る上の基礎資料となならば幸である。

尙本調査の作成に協力したるは第五委員會委員長松方三郎、委員蘆澤駿之助、岩永信吉、宇山厚、大貫元、小野忍、川崎寅雄、菅原英二郎、大道太郎、多田裕計、戸叶武、中根直介、藤井正夫、松井松次の十四名（五十音順）及び幹事坂本義考、宮原正巳の兩名である。西村捨也

昭和十六年九月三十日

上海市政研究會
會長 岡本一策

目 次

四、租界に於ける出版界の現狀	八一頁
附、華文雜誌調	一〇一頁
五、租界に於ける外支言論機關	一三〇頁
六、租界に於ける放送宣傳の現狀	一七一頁
七、租界に於ける支那映畫界の現狀	一八五頁
八、租界に於ける演劇界の現狀	二〇七頁

租界に於ける中國出版界の實情
附、華文雜誌調

一 事變前の上海出版界

全支那に於ける上海の重要にして異様な地位、それは出版界にも見られるところである。事變前即ち昭和十二年八月十三日以前の一年間に就いて言ふと、上海に於ける出版圖書は支那全國の九割以上を占め、新聞雑誌は八割以上を占めてゐたとされる。上海の出版界は充分に全支のそれを代表したと見るべきで上海は全支への知織供給の鍵を握つてゐたのである。次に英文中國年鑑にあり、民國廿五年出版物統計を見よう。

	新刊書	新聞紙	雑誌	合計
南京	二九二	二四	八八	四〇四
上海	五七二	二三	一〇九	五八五三
廣東	二二	—	—	二二
天津	二五	五六	二六	一〇七
北京	八一	二九	三四	一四四

漢口
其他

六一八五
三八

三四四
二〇一
四五八
七八一九

五六八三
六一
一

(註)新聞雜誌の種數は内政部の登錄點數

出版と表裏をなす販賣の面について見ても、上海の書店は全国第一の多きを誇つてゐる。許晚成編「戰後上海及全國書局文具店調查錄」民國廿八年五月)は事變後のものであるので、前の統計年度と一致しないが、上海の優位については變化はないと見てよからう。

上海市	二四八	南京	四〇	江苏省	一三七
浙江省	一三六	安徽省	五五	江西省	七五
湖北省	五二	湖南省	六〇	四川省	二一五
河北省	五七	北京市	九七	天津市	五三
山東省	七八	青島市	一五	河南省	一一三
山西省	七〇	陕西省	四一	甘肃省	三六
寧夏省	三	福建省	八四		

廣東省 一一三 廣西省 三九 湖南省 七三

貴州省 三四 合計一、九二七 (香港四二)

然しながら此れは決して多くの出版店が競つたゝめではない。支那出版界の三大店たる商務印書館、中華書局、世界書局の出版統計を見ると、上海の全國に對する優位が、此三省特に商務の優位であることを知る。然もこれは何れも南京政權の有力者と密接な關係にあるものであつた。

事變前三ヶ年三大出版社新書統計

年 度	商 務	中 華	世 界	合 計	全 國 出 版 物 總 數	百 分 比
廿三年	二七九三	四八三	二二	四七八六	六一九七	六一
廿四年	四三九三	一〇六八	九一	五七五二	九三二三	六二
廿五年	四九三八	一五四八	三一	六七一七	九四三八	七一

次に王雲五の「十年來的中國出版事業」—十年來的中國（民二六）に依つて此等の新書の内容を更に分類すると次の如くである。

民國廿四、廿五年度全國新出版物種別百分率分類表

24年 25年 年均

總類	43強	39強	41
哲學	2弱	2弱	2弱
宗教	2弱	0.5	1強
社會科學	28強	27強	128
語文	2弱	2強	2
自然科學	3弱	2強	3弱
應用科學	4弱	5強	4強
藝術	3強	4弱	4弱
文學	5強	11弱	8
地	6強	6強	6強

總類、社會科學、文學、史地の順である。總類の多いのは双書時代と言はれた四部備要、二十五史、四庫全集などの復刻のためで、此等の國學書の複刻は國故整理の文化運動に依るものであるが亦新生活運動、中國

本位文化運動に關聯を持つものと云へるであろう。

要するに商務始め大出版店は、國民黨と關係をもち、彼に有利な出版方針をとり、自然科學、應用科學、國學等の書籍を出し、急進的な小冊子の煽動出版物はなく、政治の統制が一應行はれてゐたのである。

三、事變の影響

八一宣言、西安事變以後、人民戰線派の活躍は烈しくなり、出版界もついに此の怒濤に巻きこまれるに至り、今次事變發生と共に、出版界は懲々全民抗戦の宣傳任務に動員される事になつた。上海戰當時兩租界を中心、日刊、三日刊、五日刊、週刊、旬刊等至らざるなき抗日雑誌書報が出来され、抗日小冊子が氾濫した事は周知の如くである。然し乍ら上海陷落後大出版店の工場等の破壊、日本の抗議による租界當局の出版取締によつて、出版界は慘く打撃を知るに至つた。依然たる宣傳小冊子の出版はさて置き、事變による政治的、經濟的其他の原因によつて、上海出版界の甚だな打撃は略々次の如くであらう。

一 戰區に印刷工場を有した出版店は、工場倉庫等を破壊され、直接的損害を蒙つた（商務、中華、世界、開明等）これは業務能力のみでない。經濟的にも損害であつた。

二 上海の孤島化は、自由な活動を許さなくなつた。且つ奥地と交通の

阻害、戰區の擴大は、販路を減少せしめたし、租界内でも物價高のため
め磨買力が底下し、賣行は悪くなつた。

紙、印刷、製本其他の諸掛は、物價く騰貴した爲に經營は困難とな
つた。歐公の「四年來的上海出版界」（上海周報四卷七期）に依れ
ば、戰前、戰後の一般製造費及び運賃の値りは次の如くである。

	イ 一般製造費	道 林 紙	排 字 工	印 刷 工	裝 釘 工
(元)	(%)	(元)	(%)	(元)	(%)
廿六年七月	500	100	300	100	90
廿七年七月	600	110	350	110	100
廿八年七月	1,200	140	600	120	110
廿九年七月	1,000	500	400	80	100
三十年七月	1,000	100	450	110	110

(註) 紙價は一ヶ月平均 工賃は大小同等 支拂賃銀の平均賃銀

上海重慶間運賃比較

每噸 比較 路

經

路

廿六年七月

四〇〇〇(元)

一〇〇

長江より直通

廿七年七月
廿八年七月

二五〇〇〇〇
五〇〇〇〇〇

六二五〇
一二五〇〇

粵漢線から漢口經由
佛印から昆明經由

廿九年七月
三十年七月

一〇〇〇〇〇〇
一五〇〇〇〇〇

三五〇〇〇
三七〇一〇

沙漁浦より衡陽經由
ラダグレンより昆明經由

(註) これは官定値段で外は閣の費用がいる。

四著述家の多くが奥地に逃避し、よい原稿の入手が困難となり、上海に留るものも執筆が少くなつてゐる。

大体以上のやうな事が言はれるであらうが今所謂六大出版店（商務、中華、世界、大東、開明、正中）に就いて見ると事變後一年には出版冊數は次の如く減じてゐる。

事變前一年

事變後一年

(廿五年)

(廿七年十月
廿八年九月)

增減

七九

(十) 三九

三三

(一) 四九

六

(二) 一

一七六

(二) 三〇二

九二

(二) 二

七六

(二) 七〇

一二二

(二) 二

三六

(二) 一二一

一一二

(二) 二二一

三三三

(二) 二二一

五一

(二) 一三二

哲學
宗敎
社會科學
語文學
自然科學
應用技術
藝術
文學
歷史地理
合計

四〇
八二
七
四七八
九四
一四六
一五七
一五七
一四六
一七六
九二
七六
一二二
三六
一一二
三三三
五一
一八三
一六七七

七九
三三
六
一七六
九二
七六
一二二
三六
一一二
三三三
五一
一八三
一六七七

(二) 三〇二
(二) 二
(二) 七〇
(二) 二
(二) 一二一
(二) 二二一
(二) 一三二
(二) 九〇四

計 二四三、一一七 (二) 一一六

ハ 大 部 書 (叢書)

二八九九 七三四 (二) 二一六五

總計四八一九 一六三四 (二) 三一八五

(註) 中美周報一卷十五期「一年來的上海出版界」

三 上海出版界の現狀

事變の打撃はあつたが、民國廿九年上半期の上海は變態的な未曾有の景氣に恵まれた。種々の不利な條件はあつても、それに適したなりの行方が發見されたわけである。出版界の最近の状況を見ると出版冊數については、漸次増加してゐるやうである。然しこのことは直ちに彼等の困難が克服されたと見ることは出來ない。寧ろ民國廿九年の後期から上海の經濟的苦腦は深化して來た。出版界は統計的には漸増を示してゐるにせよ、その質量は底下したと見るのが眞相である。上海周報四卷七期「四年來的上海出版界」によつて見ると、次の如くである

但し中華、世界、大東、開明、の四店のみであり開明は廿六年度が全く欠け中華も廿六年度は八月十三日から起算してゐる。

又中華の数字には廿七、八年度は合計したものであるから便宜

上、前の三年度は平均數を掲げた。

廿六年度

廿七年度

廿八年度

廿九年度

總計

哲學	宗教	文學	社會科學	自然科學	應用技術	藝術	地學	史文	總計
三一	一八	二五	三一	三一	一五一	一二六	二三	四四三	四四三
三一	一九	二七	三一	二一	二九	二三	二三	二五四	二五四
三一	二一	六	三一	二一	一五	一〇	一〇	一八	一八
三一	五	五	三二	三〇	三	三	三	三	三
三一	六	六	三二	三六	四三	四三	四三	四三	四三
三一	五	五	三二	二七	二七	二七	二七	二七	二七
三一	二二	二二	三二	二三	五一	五一	五一	五一	五一
三一	一七	一七	二〇	二〇	七	七	七	二〇	二〇
三一	七五	七五	二五	二三	七六	七六	七六	三九	一三九九
三一	一二四	一二四	二七二	二七二	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四一六	四一六
三一	二二一	二二一	一三四	一三四	一一八	一一八	一一八	二八六	二八六
三一	一二一	一二一	一三一	一三一	一八	一八	一八	二五四	二五四
三一	一二一	一二一	一三一	一三一	五九	五九	五九	二八六	二八六
三一	一二一	一二一	一三一	一三一	二九	二九	二九	二三	二三
三一	一二一	一二一	一三一	一三一	一二六	一二六	一二六	二三	二三
三一	一二一	一二一	一三一	一三一	一三一	一三一	一三一	一三一	一三一

廿九年度は珍らしく、前年に比し、増加してゐる。それは文學、應用技術、總數の増加によるものである。これは商務を含まざ絕對的のものでないが、變態景氣による購買力の恢復、國際狀勢の變轉による知識欲の増進を促した原因もあらう。然し上述した如く、物價騰貴による客觀條件は決して除がれてゐるのでないから今後の狀況に就いても向上線を辿ると云ふ事は予測出來ないと思はれるが次に最近の動向を述べて見よう。

A

大出版店の動向（商務、中華、開明、世界、生活、大東、光明）

イ 商務印書館

本據は香港に移つた。經理兼編輯長は王雲五である。外に上海、長沙、桂林、重慶、昆明等に店を有してゐる。出版は往年の如く華かでないとは言へ、依然として堅固である。傾向は大學教科書向きの一般理論書、國學基本叢書叢書集成續刊、奥地の學者の研究書、翻譯書（中英、中法文化基金委員會の事業が多い）、青年修養書などの出版を指摘できよう。

中華書局

重役には孔祥熙、吳鏡淵があり、編輯主任は舒新城である。民國二十九年度に出版せる新書は一二七種、一四七冊で其の中文學の三三種三七冊史地の十八種二十一冊が多い方である。専門學校、大學の教科書類のもとの、一般理論書が多く、又世界文學の名作の翻譯（トルストイ「戰爭と平和」ト 郭若譯等）を出してゐる。商務に比して尙活動が目立たない。

八 開明書店

上海の外重慶、成都、昆明、貴陽等にも店をもつてゐる。經理は寧錫琛編輯主任は夏丐尊であつた。嘗て廿五史などの大部出版物を出したが、戰後は全く大きい出版はない。最近古史第七冊、清代思想史綱等歴史研究書が多い。又圖書季刊、學林、齊魯學報等の學術雑誌を取次いでゐる

二 世界書局

董事李石曾、經理兼編輯長陸高誼である。教科書、時事解說書、衛生書などを出してゐるが其の數は多くない。

ホ 生活書店

事變前人民戰線の鄒韜奮によつて主辨されてゐた、事變後上海を拂ひ、重慶、桂林、香港、西安に店を持つた。上海で入手した生活書店の書物は民國二十八年のものが多く、陳伯達「在文化陣線上」李何林編「近二十年中國文藝思潮論」「世界名著譯双」一反杜林編、帝國主義等がある。國共關係の緊張により、各地の生活書店が國民黨に襲撃破壊されたとの消息がある。其故か新しい出版物の祥細に就いては不明であるが抗戰期に最も廣く活動をしてゐる。

ヘ 大東書局

主要職員は沈駿聲、談松濤、郭鴻蟹である。先年中國醫學大成を出してから殆んど目立つた出版をせず、文房具店となつたやうである。

ト 光明書局

上海の外重慶、桂林、曲江、全華に店を有してゐる。ソ聯出版の社會科學書の翻譯、現代語辭典などを出してゐる。

丁 B 小出版社の簇生

事變後の特異な現象の一つとして小出版社の簇生を擧げねばならぬであらう。大出版店の間隙を縫ふこれらの小出版社は事變前とてもなくはなかつた。然し乍ら前者の事變に依る物的打撃、政治的關係の廢止による出版制限は、後者には少い。加れるに時事の急速な轉移は、手軽な啓蒙的出版物を要求し、それが亦小出版社の恰好な據所となつた。總じて比種の出版社は所在地を示さぬのが多い。中には名儀文のもの、一社にして數社の名をもつものもある。出版書は國際狀勢の分析、支那革命史關係等學的社會科學書などが多。次に目に觸れるものを擧げてみよう。

一 中國拉丁化書店（郵箱一七四一號張）

迭肯「中國語文的整理和發展」等

二 國民書局（九江路二一〇號內四〇五號）

演劇脚本を出版する。干怜「花灑淚」蔣坼「上海小景」等

三 長風書店（九江路二一〇號內四〇五號）

四 珠林書店（牡嶺路）

平心「論魯迅的思想」等
支那史の小冊子を出す。

子田「中國文化史」等

五 求知出版社（地址不明）

求知文叢を出版

六 北 社

馬健「論國共合作」北斗（雑誌）

七 新知書店 事變直前からあつたやうである。

新啓蒙主義の本を出した。其の後集納双書と言ふ中共關係の本を出版した。項英將軍言論集、新軍言論集等。現況不明。

八 青鳥出版社 周恩來「論蘇德戰爭」等

九 全門出版社 子強「日本和英美或蘇聯開戰嗎」等

一〇 東方出版社 朱德「三年來」等

一一 獨立書店 「到自由幸福之路」等

一二 青年雜誌社 「新西南」等

三、新中出版社 何幹之「三民主義研究」等

四、微光社 朱德「三年」等

五、公民出版社 「皖南問題的報告」等

六、虹々出版社 賀符「中國與美國」等

七、世界出版社 「皖南慘變面々觀」等

八、聯合出版社 「怎樣制止中國內戰」等

九、晨光書店 史恩奇「論中國特殊性及其他」

一々列舉の煩に堪えぬが以上の外讀書出版社、新中出版社、新生代出版社、言行社、光大出版社、新人出版社、懇協書店等々がある。最近特に目につくのは、中共關係の政治綱領、中共首腦者の談話、在香港の人民戰線派文化人の論文を、原掲載紙から再刷して出版することが多いことである。然して畫廊國民黨のものは全くない。

○ 香港の出版物

商務印書館などは香港に主力があるのである。が、それとは別に最近香港に逃避し來つた人民戰線派の論客を中心に出版が行はれてゐるもののが

ある。その主なるものは次の如くである。

時代批評社（主編者は周鯨文。雪廠街十號三樓）は雑誌時代批評_{時代文學}時代批評_{時代文學}を出してゐる。執筆者は夏衍、茅盾、千家駒、端木蕻良などの蔣政權への不平家である。大衆生活社（雪廠街太子行）は生活書店の經理で重慶より脱出し來つて、鄧韜奮が經營してゐる。周刊「大衆生活」（今年五月創刊）「大衆文學」を出してゐる。執筆者は「時代批評」のそれと殆んど同一。

婦女知識社（皇后大道）は何香凝などの執筆で「婦女知識」を出してゐる。其の他

中國國貨實業服務社（雪廠街十號六樓）は林康侯、潘仰堯などの經濟人の主辨になるもので「國華與實業」を出してゐる。西南開發、華僑資本の問題を扱つてゐて、賈大毅、陳翰生などの有名人も執筆してゐる。其の他

國泰出版社は平心の中國現代史初編を出し、
鷄鳴書店

は中共の華齡の「中國民族解放運動史」を出してゐる。

友社

である。これらの圖書雑誌は時代書店、星群書局の經售で上海の五洲書局（山東路）に來て賣られてゐる。又、

天文台報社（雲咸街）があるが主辨者は陳孝威で、天文台双書（例白崇禎、抗戰兩年的回顧與前瞻、湘北會戰、陳孝威抗戰論文選集等）を出してゐる。又宋斐如の編輯になる月刊「戰時日本」がある。

次に香港以外の出版物で上海に來てゐるものと擧げると、柳州の學用社の「二千年中日關係發展史」（李季若、二九年六月）桂林の文化供應社の「實用百科辭典」「實用國民年鑑」廈門鼓浪嶼の新公論社の毛澤東「論新階段」（二八年一月）などがある。

D 洋書の翻版

事變後生じた特殊の現象の一として、この洋書の翻版がある。洋書の入荷難、値上りなどに乗じたもので、版權を當然の如く無視してゐる。獨逸の醫學書、英米の工學、化學、英米より出た時事書、有名小説が出され、廉價なために需要が多い。此の翻印の魁は河南路の龍門聯合書局であるとされ、四川路の大華雜誌公司、現代圖書公司等や靜安寺路、霞飛

路などで、此の種のもののみで堂々經營してゐる書店がある。因みに、北京の文殿閣では支那學關係の歐人の名著が（ハワースの蒙古史、コルデエのビブリオテカ、シンカホジー）が翻版されてゐた。

事變中に於ける上海租界内にて發行せる華文雜誌調

一、民國廿七年から現在に至る間に刊行せられた華文雑誌を収録したが上
海戰の最中に續出した抗戦刊物は除外した是等は大底短期に停刊して
了つたからである。

二、收錄雑誌は四百種を算するが宗教關係のもの一般に販賣されない特殊
な刊物其他に於て脱落したもののが少くないと思ふ。

三、分類は大体の目安で行つたので些少の誤りがあると思ふ、種類左の如
し

(1) 出版関係	五	(2) 科 學	一四	(3) 醫 學	二九
(4) 工藝産業	二六	(5) 文化綜合	六九	(6) 宗教哲學	一六
(7) 教 育	一六	(8) 語 學	一五	(9) 文 學	五三
(10) 歷 史	四	(11) 地 理	一	(12) 商業經濟	三〇
(13) 演劇映畫	三二	(14) 美術音樂	一三	(15) 家庭婦女	一八
(16) 娛 樂	四四	(17) 藝 報	一五	合計	四〇〇種
四、收錄したものが現在（昭和十六年十月未）も續刊されてゐる譯では勿 論ない、三年間の總括なのである。					

最近年中に上海發行の諸雑誌一覽

昭和十六年十月 謂

一 出版文摘關係

誌名	發行日	種類	編輯者	創行年月	備考
文摘日報	月	上海知識文摘月刊社	民廿九年十月	七	
知識文摘	月	集誌編譯社	民廿九年十一月		
新聞學報	月	新聞學報社	民廿九年三月		
讀者文摘	月	上海書報公司	民三十年一月		
人類學集刊	月	中央研究院歷史語言研究所	民廿七年十二月		
化學文摘月刊	月	亞都化學實驗室編	民三十年四月		
民眾科學	月	許繕禹、陰啓文編	民四年十二月		
科學生活	月	中國科學社	民廿八年五月		
科學園地	月	科學生活社	民廿八年一月		
青年科學社		主編八劉咸			

科 學 與 生 活	科 學 與 趣 味	月	科 學 趣 味 社		
科 學 雜 誌	科 學 雜 誌	月	自然科學館	民三十年	六月
科 學 雜 誌	科 學 雜 誌	月	中國科學儀器公司	民廿二年八月	主編八楊幸述
數 理 月 刊	數 理 月 刊	月	中國新化學月刊社	民廿八年	
實 用 科 學	實 用 科 學	月	上海實用科學社	民廿七年九月	
數 學 雜 誌	數 學 雜 誌	中 國 數 學 會	民廿八年十月	主編八張資平	
九 福 季 刊	九 福 公 司				
上海厚生醫藥報	黃士揚、穆千里	民廿九年四月			
上海醫事週刊	中華醫學會上海支部	民			
中國女醫	中國女醫學社	民三十年一月	英文記載	代 商務印書館 刊	
中國醫學	朱鶴泉、盛心如編	民三十年一月			
中國醫藥	袁正剛、薛寒鷗	民廿八年			
中華健康雜誌	中國醫學會				

黃士方編

中華醫學雜誌	中華醫學會	月	中華醫學會上海支部	民廿八年	民四年
中華醫藥專刊	中華醫學會	月	中華民國醫學會上海支部	民廿八年	民廿八年
同濟醫學月刊	同濟醫學月刊社	月	同濟醫學月刊社	民十五年	民廿六年九月
民生醫藥	民生醫藥社	月	拜耳藥品公司	民廿六年	民廿六年九月
拜耳醫藥新報	拜耳藥品公司	月	陶成孫董兆騰蔣本折等編	民廿八年七月	民廿九年
現代醫學	中國麻瘋療養院	月	國立上海醫院	民廿八年	民廿九年
晨光季刊	國醫導報	月	國醫導報社	民廿六年	民廿八年一月
國立上海醫學院季刊	新醫藥刊	双月	新醫藥刊社	民廿八年	民廿八年一月
國醫導報	國藥新聲	月	國藥新聲社	民廿八年二月	民廿八年二月
新醫藥刊	新醫藥季刊	季刊	中華麻瘋救濟會	民廿八年十二月	民廿七年十二月
新中醫刊	新中醫刊社	月	新中醫刊社	民廿八年二月	民廿八年二月
新藥界	胡賡佩	月刊	新中醫刊社	民廿八年二月	民廿八年二月
準月		半月刊			伍裕萬編

四 工 藝 產 業						澄光醫藥季刊	年四回	五州大藥房	民廿九年三月
考工界	月考工月刊社	月刊	月刊	月刊	月刊	醫藥進育	季刊	新醫進修社	民廿六年
五金界	美商環球信託公司研究部	月	錢如璋、石玉	中國化學工業會	民十八年七月	醫藥導報	月刊	上海藥導報社	民廿七年
木業	中國紙業月刊	月	上海市木業教育促進會	民廿九年	醫藥化學聯	月	上海藥和化學月刊社	民廿七年	民廿九年三月
化學	化學雜誌	月	錢如璋、石玉	民廿九年十一月	醫藥化學聯	月	華聯クラブ	陳文編	民三十年六月

存聲	建築工程	染化	紡織之友	紡織工程	紡織染工	紡織染工	紡織染工	紡織染工	紡織染工	紡織染工	南通學院	民廿九年年九月	復刊
殷信之													
月刊	季刊	月	季刊	月	季刊	月	季刊	月	季刊	月	季刊	月	
南通學院內・染化研究會	南通學院紡工編輯委員會	民三十年一月	民廿八年四月	民廿八年四月	民廿八年四月	民廿八年一月	民廿九年六月	民廿九年六月	民廿九年六月	民廿九年六月	民廿九年六月	民廿九年年九月	
南通學院	南通學院		蘇工紡染會	大同大學理工學院	農業之友社	北京路瑞康里六號	農業之友社	上海無線電週刊社	中雍無線播電機廠	無線電週刊社	廣東播音月刊社	廣東播音月刊社	林鶴欽、劉龍光
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	應用無線電
民廿七年七月	民廿九年四月	民廿九年八月	民廿五年	民廿八年	民廿九年	民廿九年十一月	民廿九年	民廿八年	民廿九年	民廿九年	民廿九年	民廿九年	實用無線電雜誌
藝文印刷月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊	廣東播音月刊

染織紡學會
發行事變後
月刊トナル
黃希閣編

釀造雜誌
文化綜合

中國釀造學會

民廿九年

人世間	月刊	人世間社	民廿八年十一月
大學季刊	季刊	大學季刊社	民廿九年四月
大美週報	週刊	(米) M. G. Bruce	
大學生活	半月刊	張再飛、黃志剛	
大陸月刊	月刊	大陸月刊社	
大眾半月刊	半月刊	鄭給中	
上海周報	週刊	上海週報社	
上海評論	月	上海評論社	
文心	月	文心出版社	
天下事	半月刊	亢德書房	
天地間	月	天地間月刊社	
中行雜誌	月	王彥存、莊智源	
中美周刊	周刊	袁振華	
中流	半月刊	中美周刊社	

中國文化月刊社	民廿七年十月	中國文化月刊社	民廿七年十月
中國與世界	民廿九年七月	徐守高、孟憲麟	
中華評論	民三十一年八月	師山編	
文海周刊	半月刊	嚴華	
四十年代	綜合	競進學藝社出版部	
半壁	月	新人出版社四十年代社	
世界文化	月	半壁出版社	
世界雜誌精華	月	世界文化出版社	
西風副刊	月	世界文化出版社	
西風精華	月	西風社	
知識與生活	季刊	西風社	
長風	月	西風社	
青年人	半月刊	長風書店	
美商青年雜誌社	民廿九年十月	民廿九年一月	民廿九年九月
	民廿九年一月	民廿七年三月	民廿七年九月

華情	光月	刊報	國際間	季刊	月刊	向理	風真	島動	時代	代聲	海海	青年雜誌	年文會	青年大衆	半月刊	青年大衆半月刊社	民廿八年
月	週刊	半月刊	季刊	月	月	週刊	月	月	半月刊	時代譯刊	半月刊	張象鉤	二十冊全	半月刊	青年文會社	民廿八年五月	
華光月刊社			國際間	出版社	新入出版社	蔡子素	美商、華盛頓出版印刷公司	真人通刊社	島鳳社	益友社	益友社	時代譯刊	青年知識社	青年知識社	青年知識社	青年知識社	民廿九年三月
民廿九年八月									民廿八年七月	民廿八年九月	民廿八年十月	民廿九年九月	民廿九年十月	民廿九年十一月	民廿九年十二月	民廿九年一月	民廿九年二月

學 與 生	學與生月刊社	民廿九年	一月	新知譲	半 月 刊 ノ 後 身		
簡 講	雜誌報	民三十年九	月				
壇	報	民廿九年	三月				
讀書月報	月刊	民廿七年	五月				
譯報週刊	月刊	民廿七年	十月				
中華敎會公報	月	民廿八年	二月	胡繩編			
中華歸主	月	民廿八年	二月				
中華命	月	民廿八年	二月				
生	周鼎銘	民廿八年	二月				
仙	中華全國基督教促進會	民廿八年	二月				
道	廣學會生命編輯部（王完白）	民三十年	一月				
正氣旬刊	張竹銘、汪伯英	民三十年	一月				
生活與實踐叢刊	章君直	民三十年	三月				
佛學半月刊		民三十年	三月				
宗教教育季刊	中華基督教宗教促進會						
明燈	廣學會						

哲學評論	學月刊社	民廿九年十一月
哲學雜誌	中國哲學會	民十六年
道義	哲學雜誌社	民廿九年四月
綠旗月刊	半月刊	錢修靜、徐翰臣
聖心報	月刊	民廿九年
聯聲月刊	月刊	上海聯出委員會
大學生十日刊	王朝楨、董希白	
中學生生活	薛榮、蒯斯勳、田仲嚴等編輯	民廿九年
少年自修讀本	張聖五、王尊素	民廿八年三月
小學教師	美商聯邦出版公司	民廿八年四月
正言教育月刊	上海市各界廉恥運動委員會	民廿九年三月
明燈	自修週刊	陳鶴琴總編

時 代 教 育	育	界	週	邵 鳴九 主 編	時 代 教 育 月 刊 社	民 廿 九 年	五 月						
教 育	育	界	週	邵 鳴九 主 編	學 生 月 刊	月	月						
學 生	學 生	活	半 月 刊	學 生 月 刊 社	民 廿 九 年	一 月							
學 習	學 習	活	半 月 刊	讀 書 生 活 出 版 社	民 廿 九 年	四 月							
學 習	學 習	活	半 月 刊	王 方 舟、 柳 靜	民 廿 八 年	九 月							
學 業	學 業	活	半 月 刊	職 業 生 活 社	民 廿 八 年	九 月							
職 業 與 修 養	職 業 與 修 養	活	半 月 刊	中 國 圖 書 編 譯 館	民 廿 八 年	九 月							
大 眾 文 研 究	大 眾 文 研 究	報	半 月 刊	張 志 浩									
中 國 語 文	中 國 語 文	月	月										
名 著 選 譯	名 著 選 譯	月 刊	月										
長 風 英 文	長 風 英 文	半 月 刊	月										
英 文 自 修 大 學	英 文 自 修 大 學	英 文	半 月 刊										

報
新
文字
ノ
情

正言文藝月刊	正言文藝月刊社	民三十年三月	日本文藝新月刊	小小說月報	聯華廣告公司出版部	民廿九年十月
正言文藝月刊	正言文藝月刊社	民三十年三月	日本文藝新月刊	劇場雜誌	巴雷瀉	民三十年一月
文藝集叢	文藝新潮	月	月	大眾文藝	上海海鳳出版社	民廿九年十月
文藝集叢	文藝新聞	週	適夷	文學月報	文筆社	民廿八年六月
文藝集叢	文藝新潮	月	文藝長城社	文學月報	文筆社	民廿九年十月
文藝集叢	文藝新潮	月	鄭子光編天一書店	文學月報	文筆社	民廿八年十一月
文藝集叢	文藝新潮	月	上海文藝世界社	文學月報	文筆社	民廿九年十月
文藝集叢	文藝新潮	月	上海文藝世界社	文學月報	文筆社	民廿九年十月
文藝集叢	文藝新潮	月	上海文藝世界社	文學月報	文筆社	民廿九年十月
文藝集叢	文藝新潮	月	上海文藝世界社	文學月報	文筆社	民廿九年十月
正言文藝月刊	正言文藝月刊社	民三十年三月	日本文藝新月刊	小說月報	聯華廣告公司出版部	民廿九年十月

史地論叢	一〇	歷史	綠文藝州	綠州月刊社	民廿八年一月
		新文藝	新生	月	月
		新中國文藝叢刊	新中國文藝叢刊	林智石、馬守一	民廿九年十月
		戰國策	戰國策	讀書生活出版社	民三十年十月
		魯迅風	魯迅風	語風出版社	民廿九年十月
		獨幕劇創作月刊	獨幕劇創作月刊	麥小雍、王彥在、馮夢雲	民三十年一月
		濤聲	濤聲	上海潮鋒出版社	民廿七年十一月
		戲劇文學叢刊	戲劇文學叢刊	麥小雍、王彥在、馮夢雲	民廿七年十一月
		戲劇與文學	戲劇與文學	上海濤聲文藝出版社	民三十年三月
		鐵藝文叢刊	鐵藝文叢刊	國民書店戲劇與文學社	民廿九年二月
		流風	月行	藝風社、楊克、萍編、葛其烈發行	民廿九年六月
上海文史社編、東新書局發行					
民二八年十月					

史筆編纂館	民廿九年二月	說文月刊	言半月刊	史	史筆編纂館
章氏國學講習會	民廿七年	說文月刊社	月	文月刊	制言
民廿八年一月		中國旅行社	月	地璣	旅行雜誌
民十六年		上海工商會有志	月	經濟	人事管理
民廿七年		民廿八年一月	月	工商月報	工商月報
民廿一年		民廿六年	月	中央銀行月報	中央銀行月報
		民廿九年	月	中外金融週報	中外金融報
		民廿九年	月	中外經濟統計叢報	中外經濟統計叢報
		民廿九年九月	季	立信月報	立信會計季刊
		中立性ノモノ		日本評論社	正誼會計月刊
		日本評論社		日本評論	正誼會計月刊

日用經濟	月	美商環球信託公司經濟研究所	民廿八年三月
公信會計月刊	月	公信會計師事務所	民廿八年一月
社會科學月刊	月	社會科學研究會	
金融導報		銀行學會	
信託季刊	季刊	信託季刊社	
保險月刊	月	上海市保險業餘聯誼會出版委員會	
商業友報	月	許完辟、碩詢	
商業月報	月	上海市商業月報社	
商業實務		商業實務社	
國華與實業		上海商學院	
國際勞工通訊		國際勞工局中國分局	
經濟統計月誌	月	中國經濟研究會	
經濟研究	季刊	復旦大學、會計學社	
經濟統計社刊	月	民三十年	民廿九年
經濟統計月誌	季刊	民三十年	民十年
經濟研究	月	民廿八年八月	民廿八年八月
經濟統計月誌	月	民廿八年一月	

經濟叢報

週

經濟叢報社

民廿八年

銀行週報

李權時

銀行學會

銀行學會

銀錢界

上海市銀錢業業餘
聯合會出版委員會

民廿五年

三、演劇、映畫

十日戲劇

張古愚

半月戲劇

鄭子褒、陳心禪

青年劇場

青年戲劇社

影迷良友

月刊

中國影訊

月刊

中外影訊

月刊

大眾影訊

月刊

觀眾影訊

月刊

好萊塢影訊

月刊

好萊塢特訊

月刊

民廿九年七月

一、美術、音樂				劇場新聞	劇場藝術	月刊	劇場新聞社	民廿九年七月
漫畫	歌舞	新音	綠野	中國口琴界	歌叢社	月刊	胡松青、松青	民廿七年十一月
月	月	月	月	月	歌叢社	月刊不定期	邱人慤、劉慕耘	民廿六年
漫畫社	歌舞訊社	新音樂刊	綠野刊	中國光藝	謝海蘋、溫肇桐			
				週迴	譚志遠、鄭啓中			
				現代藝術	馮雪奇、錢力行	民廿九年一月		
				現代藝術	週歌社編、恨秋出版社發行	民廿九年八月		
				國光				
				國光				
				上海綠野歌劇社				
				讀書生活出版社				
				民廿九年				
				民廿三十年一月				
				民廿八年十一月				

一五、家庭婦女									
婦 女 界	健 康 家 庭	家 庭 與 婦 女	時 代 兒 童	現 代 家 庭	少 年 先 鋒	中 國 婦 女	大 地 女 兒	小 主 人	藝 術 歌 撰
婦 女 界	健 康 家 庭	家 庭 與 婦 女	時 代 兒 童	現 代 家 庭	少 年 先 鋒	中 國 婦 女	大 地 女 兒	小 主 人	藝 術 歌 撰
蔡魯依	陸伯羽、潘仰樵	畢文秋、田銘	徐百益	周雞晨、王人洛主編	王人洛	劉美麗	王丹、大地女兒社	載巾新	潘念長
民廿九年					民廿九年五月	民廿八年十二月	民廿七年七月	月刊	不定期
						全國女作家			

理想家庭

民三十年三月

新女性

民廿九年十二月

新兒童叢刊

楊文浩、張運池

福幼報

Myson E. Terry
Miss Mary Brown

一六 娛樂

人 生 月

劉龍光、林鶴、藝文廣告社

天 真 談 報

大眾出版公司

民三十年七月

十 日 論 報

大眾出版公司

民廿九年八月

大 觀 園

何少華、郭小楓

上 海 生 活

聯華廣告公司出版部新聞報館

民廿六年一月

上 海 特 寫

虞嘉麟、嚴次平

民廿九年四月

天 津 郵 刊

中興文藝醫藥月刊

鄭奮庸、鄭哲熙

日 常 生 活

卓祥元

市 聲

梁汗韜、朱艾華

										生活（健康新生活）	月	健康新生活社	民廿九年一月
										永安月刊		郭樂、鄭留（永安公司）	民廿八年五月
海嘯	偵探	偵探	世界	浪界	半月刊	半月刊	半月刊	半月刊	半月刊	百合花園	月	沈浩、章秀珊	
三週刊										交際風	週	姜善山	
徐勁										百合一	月	再鴻初、周鷗晨	
										狄克探案	月	楊寶深、畢文秋	
										貝殼	月	馬家麟、姚濟良	
										政政	月	武干銘、顧明道	
										幽獸	月	黎供、羅澤深	
										兒童滑稽	月	尤廷驥、徐仰穎	
										風雲	月	幽默風社	
										風	月	業餘半月刊社	
										康樂世界	月	顧元常、蘆振鐘	
											民廿八年五月	民廿九年九月	民廿九年十二月
											民廿九年	民廿九年	民廿九年

藝海遍間	橄欖觀登	摩樂	綠光郵票社	蒲公	新山	滑稽圖畫週間	萬奇	滑稽世界	越譯	都會	萬象	異風	郵花誌	濟、何甚	民廿九年
期不定	月	半月刊	月	週	月	月	週	月	月	週	月	月	譚沛霖、羅小廷	林梅萍	民廿九年十月
陳立、范潔千	何杯達	上海樂觀雜誌社	摩登半月刊社	綠光郵票社	豐子由、丁念千	文友出版社	民廿九年	吳文采、苑平安	羅澤深、畢文秋	蔡夢英、樊廸民				民三十年七月	

七、畫報

羅干	菜	月	榮伯雲、丁善昌
艷秘	月刊	月	朱文、King Has. Price
天	下	畫報	牛月刊
青年	知識	畫報	牛月刊
星	期	畫報	大中國出版社
小	姐	畫報	民三十年三月
中	西	畫報	大中國出版社
中華	畫報	月	民廿九年十二月
安	世	界	美商、中華雜誌社
新	國	展	民廿二年
華	際	良友	民十七年
色	望	月	張善琨、龔天衣
畫	友	月	
報	全	半月刊	
旬	月	月	
銀	新	良	
色	華	友	
畫	畫	月	
報	報	月	

世界大戰畫報	月
歐戰史	月
電影	周刊
金問訊、嚴次平、	
益友社	
民廿六年七月	

租界に於ける中外言論機關

中國側新聞社

新聞名	社址	編輯幹部	泊車	傾向	備考
申報 (米國籍)	漢口路三〇九号	發行人 C.W.オーリマン 經理 馬蔭良 幹部 胡仲持 潘公弼 位特公	同治十一年三月二十三日(一八七二年四月三十日)創刊 民国二六年十二月十五日停刊 二十七年復刊廿六十余年ノ歴史ヲ有シ華字紙中最近ノモノ	重慶政權ノ上海ニ於ケル機關紙ニシテ頗る反日ハ特ニ中立的態度ノ表現ニ努ム	約五万部 申報年鑑ヲ出版
華美晚報 (米國籍)	愛多亞路一七二号	發行人兼董事長 H.P. Miller 總經理 米作同光俊 ニ斃レシ後同夫人汪氏 ガ名儀上ノ總經理トナル	民国二十五八年八月十八日創刊 一時和平派ニ接近ノ傾向ヲ見セタガ最近ハ中立性ヲ保持	發行部數約一万部	

<p>正 言 報 〔米国籍〕</p>	<p>九 江 路 二 八 九 号</p>	<p>幹 部</p>
<p>大 美 周 報 〔米国籍〕</p> <p>發 行 人 C.V. Starn, G.C. Brace,</p>	<p>名 儀 人 Franklin, C. W. 〔美商聯邦出 版公 司〕 總編輯 程 王、茜</p>	<p>吳 樹 人</p>
<p>立報ノ後ヲ受ケ タル大美報ノ後 身ニシテ民国二 八年五月工部局 ニヨリ停刊ヲ命 セラレ全 年五 月 三十一日登記証 ヲ再交附サレタ 後周刊トナリ再</p>	<p>民 国 二 十 九 年 九 月 二十 日 創 刊</p> <p>中立ヲ標榜セル モ純然タル重慶 機関紙タルコト 中美日報ト同様 ニテ工部局ヲヨ リ再度ノ停刊ヲ 命ぜラル葉楚信 が中央党部方面 ヨリ資金ヲ引出 シタモノト言ハ ル</p>	
<p>親重慶色濃厚ナ ルモ極力中立性 ヲ強調セント努 力シツツアルモ ノリ如シ</p>		

				抗日反汪的色彩 濃厚ニシテ中国 共産党ト密接ナル 関係ヲ有スル モノノ如シ	發行部数 約五十部
大英夜報 〔英國籍〕	愛多亞路 一三〇号	幹部 曾煥堂			
新聞夜報 〔米国籍〕	漢口路 二七四号	平祖仁			
新 聞 報 〔米国籍〕	發行所 美商太平洋 出版公司 〔Pai-fu Publishing Co.〕	李浩然 汪伯奇 總編輯 總經理	光緒一九年元旦 （一九三三年二 月十七日）創刊 サル		
嚴獨鶴 主筆 汪伯奇	重慶的色彩濃厚 サリシモ最近ハ 中立性ヲ標榜シ 商業的ニカモフ ラージュシツ アルが「茶話」欄ハ 特ニ尖銳デアル				
新聞夜報 〔米国籍〕	發行部数 約七千部		發行部数 約七万部		
新聞報ノタ刊紙	民国二十二年 （一九三三） 二月三十六日創刊				

中華日報 〔中國籍〕		中美日報 〔米國籍〕	愛多亞路 一六〇号	潘潘競民
五九号 北河南路				其他 潘潘競民
社長 林伯生		幹部 Suckgold	發行人 李德寬	民國二七年十一月一日創刊
旧中華日報八民 国二一年四月十 一日創刊サレ、	国民党中央宣伝部經營 宣伝部經營	張若谷 駱美中 吳任滄 李德寬		
改組国民政府ノ 上海ニ於ケル會 伝稿閔紙ニシテ ヲ受ク	重慶C.C.團ノ機 閔紙ニシテ抗日 反汪色歷然、特 ニ教育擴及集納 懷ニ於ケル反日 煽動ハ顯著ニシ テ民國二八年五 月十九日、九月十 八日ノ二回ニ亘 ツテ工部局ヨリ 停刊処分ニ附セ ラレタルが十月 以降再復刊シ、 更ニ二九年一月 三十一日又々二 週間ノ停刊処分 ヲ受ク	約一万五千部	千部	
破 发行部数 十万ヲ突				

最有力華字紙

國民新聞 〔中國籍〕	平報 〔中國籍〕	福州路	總經理 古泳琴
靜安寺路 一九二六年	社長 李士羣	社長 金雄白	總編輯 劉諭哉
黃敬齋	總編輯 陸光杰	總編輯 陸光杰	薛慧子
型 最初ハ小型紙ナ リシモ現在普通	民国二九年九月 一日創刊	民国二九年九月 一日創刊	二六年十一月二 十八日停刊後香 港ニ移転シ、汪 精精衛ノ和平運 動ノ出發ニ伴ヒ 民国二八年七月 二十日復刊、現在 ニ至ル
警政部關係記事 ノ復時英	和平派ノ有力紙 ニシテ李士羣經 當ノタメ当初ハ 百力紙デアル	閩粵民政府ノ 國旗紙和平建國 ヲ目標ニ中華日 報ト双翼ヲナス	發行部數 約三万五千部

大美晚報 〔米國篇〕	中國商報 〔中國篇〕	四川路一 一〇号	幹部 張居仁泰 鵝汀陳伊平	
愛多亞路 一九号	發行人 J. Stear		蘇浙皖統稅總司 長邵式軍ノ出 資	
幹部 張志韓 吳中一	民国二十二年一 月十六日創刊		和平派ノ新聞ナ ルモ紙面ハ極メ テ中立的態度ヲ 持ス	
英字紙イヴニン ケボストノ華字 版トシテ抗日反 汪色強ク同社經 理兼主筆タリン 張以旭ハ十四年 七月靜安寺路デ 暗殺サレ其ノ後 筆鋒が幾分鈍リシ			和 約二千部	ガ比較的多カツ タガ現在デハ清 郷工作ノ宣伝ニ 主力ヲ注グ
		發行部數 二万八千	發行部數 約二千部	同劉呐鳴 ノ画氏ル 前者ハ民 国二九年 五月、後 者ハ同年 八月何レ モ重慶テ 口斃ル
		部		

上海商報	社会晚報	發行部數約一万五千部 大陸報（英文）大晚報時事新報、申報電訊社八當初上海新聞經營者トシテ沽躍 シタ張竹坪ノトラスト的經營下ニアツタガ、ソノ後孔洋照ノ出資ニヨツテ買収 サレ董顯光ノ經營下ニアツタ。	大晚報 〔英國籍〕	亞美亞路 一六〇号	總主筆 汪倜然	民國二十一年二月十二日創刊	重慶系ナルコト 一目瞭然	模樣
創刊 十月 二十日	民國二十八年							

神州日報
〔米國籍〕

甯波路
一三〇号

總經理
蔣光堂

幹部
盛世強

桂步光

光緒三十三年二月二十日（一九〇七年四月二日）創刊民國十六年一月八日二至五一時停刊民國二十五年十月十日復刊後一時停刊二十一年十二月一日再刊現在ニ至ル

千石任系ニシテ正言報、中美日報ト並ンデ抗日反汪色最毛強シ

發行部數
約八千部

國際日報
〔英國籍〕

編輯
D.W.S. Kelan-
tai

民国二十七年一月五日創刊

生活日報

戰時日報

各社聯合發行

投機者流ノモノ

民国二十七年一月十九日創刊

部 約一千五百
發行部數

小型新聞

新 聞 名	社 址	編 輯 者	發 行 部 數	備 考
東 方 日 報	牯山領路人安里 十二号	鄧 薩 先	約二千部	
桃 色 新 聞 報	甘肅路二一七弄 四号	胡 鈞 民	約二千部	
跳 舞 日 報	(編輯部) 天津路煤業大樓 三階五号			
好 來 鳴 日 報	漢口路四五七號	許企堅、陸醒鶴	約一万三千部	ダンスホール界 ノゴシップを盛 る
社 會 日 報	愛多亞路一六〇號	齊 陳 昭	約二千部	映画新聞 評論記事ヲ遊ク
小 說 日 報	南京路慈淑大樓 五二八號			
文 摘 日 報	福州路三八〇號			
龍 報	中國圖書雜誌 公司	閱 特約發行定	約千三百部	
吉 報				
力 報				
三 号				
胡 刀 更				
約 三 千 部				
二 出 ブ	立報停刊ノ機會 情事ニユース多シ	的	比較的政治記事 多クコノ種小型 新聞中最毛良心	

晶報	北京路 景雲大樓三〇七号	上海日報	上海聯合出版 公司出版	上海寧波日報	福州路三八〇号	青青電影日報	上海寧波電影日報	青青電影
衛報	首鴻運別墅A字十号	上海寧波公報	貴州路二九〇弄 一六号	丁逸	約一萬三千部	映畫界ノ二 ユース新聞	寧波同鄉會 ノ機、閱紙	映畫新聞
上海人報	電影新聞	電影日報	虞洽鄉路四四七号	陶知奮	民國二十八 年四月一日 創刊	映畫新聞	映畫新聞	映畫新聞
正報	電影新聞	電影日報	漢口路申報館	奮	民國二十八 年四月一日 創刊	映畫新聞	映畫新聞	映畫新聞
高	范菊	朝報		知				
		人報		奮				
		芳報						
		國民日報						
		大中日報						
		正報						
		上海人報						
		正報						
		高						

抗戦期中に停刊又は内遷せるもの

新聞名	社址	編輯幹部	沿革	傾向	備考
時事新報	重慶	主幹 黃天鵬	民国二十七年 十一月二十七日停刊重慶ニ移転同年五月ヨリ発刊	財政経済ニ重兵ヲ置ク	
譯報					
民報					
大公報	香港				
ル 民 國 二 十 六 年 十二 月 十五 日 停 刊 現 在 香 港 ニ 於 テ 發 刊 サ	民国二十六年 十一月二十五日停刊	後 廢 刊 同 樣	民国二十八年 五月十九日當局ニヨリ停刊ヲ命ぜラレ以 後同様	共産党系	

導報	大美報	文匯報	時報
月一日 民国二十八年七 月 一 日 廢 刑	民国二十八年五 月十九日文匯報 ト同様停刊ヲ命 セラレ五月三十 一日登記証ヲ再 交附サレタルモ 以後週刊ニ変形	民国二十八年五 月十九日當局ニ ヨリ停刊ヲ命セ ラレ五月三十一 日停刊ヲ取り消 サレタガ以後廢 刑同様ニテ現在 ニ至ル	民国二十八年五 月十九日當局ニ ヨリ停刊ヲ命セ ラレ五月三十一 日停刊ヲ取り消 サレタガ以後廢 刑同様ニテ現在 ニ至ル
			日本側ノ 検閱ヲ受 ケ未ツタ モノ

			立報	香港
			華美農報 革報	華美農報 革報
			王人路 徐收沙	王人路 徐收沙
			民國二十六年 十一月二十六日創刊同二十一年九月日廢 刊其ノ後革報ト改編セルモ現在廢刊	民國二十六年 十一月二十六日創刊同二十一年九月日廢 刊其ノ後革報ト改編セルモ現在廢刊
	經理 <i>R.H. Miller</i>	吳中一		
刊	民國二十八年六月創刊 年月日廢	民國二十六年十二月一日創刊 年月日廢		
紙 德勒 機 開	親重慶紙ニシテ論調幾 分總健ナルモ内面的二八偽江蘇省 政府主席韓	イブニング ポストノ華字版	發行部數 約四千五百部	小型紙
		部	發行部數 二万五千	

中國側通信社

社名	地址	編輯幹部	沿革	稿件內容	備考
重慶中央 通訊社上 海分社	南京路慈淑大 樓 總社ハ在重慶	社長 馮有真 總編輯 胡瑞生 幹部 吳東 王景琦(實際 ノ編輯責任者)	重慶中央宣傳 部直屬 上海分社ハ民 國十六年十一 月成立、十七 年七月一度停 頓民國十九年 ニ至リ復辦ス	重慶總社ト スノ交換ヲ ナス、ルータ ース交換契 約ヲナシ両 社ノ華文ニ ユースハ中央 各紙ニ送ラ ル	消息二二一
上海社會 新聞社	法租界斐斐德 路貝勒路瑞華 坊二十四号	社長 朱鴻柏(新聞 報採訪記者)			
上海聯合 新聞社	法租界愛多亞 路浦東銀行大 樓	碩俊元			
新嘉江	體育二館ス ルニユース				

			新声通訊 社	天津路二〇一號
大光通訊 社〔大中通 訊社〕	愛多亞路二四 三号	平明通訊社 社内	社長 張寄涯	社長 嚴謗声〔新聞 報茶話編輯者〕
	社長 吳中一			月十六日成立
				民国十九年八
板	重慶ヨリノ 援助ヲ受ケ 反汪色紗濃 厚政治經濟 外交關係ノ ニユースヲ取	愛多亞路一六 〇号中美日報	幹部 朱雨陶 朱圭林	商界金融界 ノ宣伝機関 タルト同時 ニ重慶政府 ト密接ナル 關係ヲ有ス

			華東通訊 社	北京路景德大 樓三〇九号 社長 薛良
大通通訊 社	貴州路北京路 二九〇号	滬光通訊 社	法租界老神父 路一四八弄三 号	民国十九年七 月一日成立創 立者沈秋雁ハ ハ一三事後 同社ヲ讓渡シ 香港星島日報 社ニ在リ
社長 茹莘		社長 吳蘇中	吳蘇中八元 未共產黨員 ナルモ事後 前既ニ転向 シ、現在デハ 寧口和平派 ニ接近シ居 ル由、社会 問題特ニ司 法界ノニコ ス	現在和平派 ニ接近シツ トアルト言 ハレ政治、經 濟、体育ニ關 スルニコース ガ主ナリ
社會工商團 體氣象報告 文化記事等 就中寧波方 面ノ消息多シ				

				上海新聞社	南京路慈淑大 樓七二〇号	社長 陳東白(上海) 市政府社会 局秘書	民国二十一年 九月一日成立	相界方面教 育界ノニコ ス多シ	創立当初、 辟光前胡 志齋等が 在社
明華通訊社	天后宮市商會	華文通訊社	經濟新聞社	國光通訊社	愛文義路一七 ○九号	社長 蔣石麟	民国二十三年 十一月成立	体育界ノニ ユース社長蔣 ハ以前ノ中 央社ト関係 ヲ有シ重慶 系ト見ラル	
孫 鳴	社長	白克路二二八 弄五号	高雪汎(現在南 京政府ニ奉職 ノ由)	社長 吳農花	交易所及市 場ノニユース				
ルニニース	和平派社会 团体ニ関ス	社會ニユース 和平派ト関 係ヲ有ス							

中央電訊社
上海分社

分社長
黎照智
總編輯
楊迴浪

民国二十九年
五月國府遷都
ノ後ヲ受ケテ
維新政府時代
ノ中華聯合通
訊社ト国民党
ノ中華社トヲ
合併シテ成立
シタルモノニ
シテ国民政府
機関通信社ナ
リ、本社ハ在南
京

社名	社址	編輯幹部	沿革	稿件內容	備考
国民新聞社	福州路五三号	社長 李 總主筆 Mr. Agnes Wu.	半官通信機關ニシテ 民国十六年創設ト ンス、オーラン反ビ アソシエティラツド プレス社トニース交 換ヲナス当初宋子文 ノ出資ニテ経済ニコ ス〔殊ニ海關〕ハ極メテ 迅速ナリシモ現在上 海ニ於テハ發行シ居 ラガル模様ナリ		
大光通訊社	愛多亞路浦東 銀行四三号	社長兼主筆 夏野士〔民国 二十八年賠 殺サレシ由〕		社会思想向 題ニ関スル ニュース重 慶、共産党ト ノ關係アリ	
新々通訊社	北浙江路新唐 家弄橋餘里三 六号	民国二十二年四月十 七日成立	政治、經濟 ニュース		

現代通訊社	南京路慈淑大 樓五〇一号	重慶政府ト 關係ヲ有ス
民國通訊社	四川路三三号	
大滬通訊社	漢口路山東路 德興坊	
捷聞社	寧波路鋪壽里 六号	
新潮通信社	虞洽鄉路文元 里二弄四号	
中華聯合 通訊社	北四川路八七 九号虹口ビル 内	孫正遠
大華通訊社		民國二十九年五月國 民黨中華社ト其ニ申 中央電訊社上海分社ニ 併合サル
時代通訊社	仁親路一九号 四九(C五五九)	顧俊元
大眾通訊社	愛多亞路一四 五四号	吳謨達
		沈鶴佛
		顧俊元
		帶二分社ヲ 有セリ

中國時報 通訊社	麥多亞路三一 八号	米超然(南京) 社會部二在 (一)
社會新聞社 斐德路二八五 弄二四号	社長 蔣宗義(新聞 報社會部記 者)	

歐米側新聞社

紙名	社址	編輯	沿革	原稿	同	備考
North China Daily News 〔申林報〕	黃浦灘路一七號	所有人 H. Morris 主筆 R.T. Peyton Griffin 記者 T.M.D. Hoste, C.S. Hirsh 其ノ他九名	本市新創事業の先駆、道光三十年六月二十六日〔一八五〇年八月三日〕安門〔H. Shearman〕に依り北華捷報創刊、咸豐六年〔一八五六〕以降、後同十年〔一八六〇〕壁克〔Eckel's Pickle〕	在上海英國當局の機關紙的而在であつて同時に工部局の機關紙ある機能を務む其の社説は極東問題に屬するイギリス國策の代 辦	在上海英國當局の機関紙的而在であつて同時に工部局の機關紙ある機能を務む其の社説は極東問題に屬するイギリス國策の代 辦	發行部數約七千部週刊として、ノルドを發行、毎週上海工務局〔Panici Pan Gao ette〕を發行
經營權を別に航務商業日報を創刊、同治三年五月二十八日〔一八六四年〕申林報と改題現在に至る。						

Shang Kai
Times
(上海泰晤士報)

佛祖界

慶多亞路

一六〇

發行人

EAN Naffie

ハル

主筆

A. H. Hope

〔猶太系英人
元チマイナブ
レス記者〕

副主筆

D. P. Lecorff

副主筆

A. J. Tait

副主筆

〔猶太系英人
元チマイナブ
レス記者〕

副主筆

A. J. Tait

副主筆

〔猶太系英人
元チマイナブ
レス記者〕

光緒二十七年
〔一九〇一〕元米人
の經營するところ
であつたが民
國三年〔一九九一
〕四〔英人諸丁漢姆
経営権を得現在
に至る

論調は公正中立
立場を認め政權
に対し理解あ
る態度を示す
善を標榜日本の
立場を認め政權
に對して理解あ
る態度を示す

發行部
社の出
版代理
兼廻す

数約三
〇〇〇部

ロンドン
タイムス

佛租界(慶次)

亞路一六〇

号

代表者

宣統三年七月六日(一九一一年八月二十九日)創刊

孔祥熙系財閥の經營にかかる重慶側機関紙にて上海外字紙中最も反汪反日である。常にI.P.

發行部數約三千

[米人]理事會
の主席にして理事は
T.B. Powell

その他の三名
支配人吳
(Woo Kya-tang)

本紙は最初佛國
保護民猶太人
Sopher 兄弟の
所有なりしが一
九三〇年十月
China Publishing
Co. (主として
顧維鈞夫人出資)

に譲渡され、そ
の後更に張升平
後米国に遊
学、シソリース
立大學新聞
科を卒業、一
九三七年
入社、現在重
慶政府との連絡係にて
実權を握る
南京政府捕
捕令中の人。

上海生れ、江
ノトジョン
大学を卒業
後米国に遊
学、シソリース
立大學新聞
科を卒業、一
九三七年
入社、現在重
慶政府との連絡係にて
実權を握る
南京政府捕
捕令中の人。

華人学生間に讀
者層を有す。
く讀まる。

<p>Shanghai Evening Post & Mercury (大美晚報)</p> <p>佛祖縣廳然 亞諾一九一 一一四〇</p> <p>G.C.Brace (默權社總經理)</p> <p>Fredrick Oppen (元回國總經理)</p> <p>社つらの記者 者をしていた たことあり 米人として は比較的親 日的なり</p>	<p>J.B.Powell 記者 K.S.Chang C.D.Alcoff Paul Ficoff Paul Feng E.Pomeroy V.Elliott</p> <p>取締役、副社 長兼支配人 の名跡の下に創 刊(民国十九年 三月に至り) 民國十九年 (一九二九)四月 十六日Shanghai Evening Post の名跡の下に創 刊(民国十九年 三月に至り) 猶太系実業家の 経営する夕刊紙 にして米国政府 とは直接的關係 あるも米国の輿 論を現地に反映 せしむ。以前は 重慶より財政的 人的補助を受け 反日反汪的色彩 が一番強かつた が、昨年重慶政府 との連絡係であつた サミエル張が 暗殺されてより</p>	<p>千</p>	<p>發行部 數約四</p>
--	---	----------	--------------------

記者

Thomas

Butter

以下五名

重慶との連絡悪

くより、更に反日

家主筆グーリド

ガ米国に引上げ

てより中立的となつた。

English
Echo

四川路南京
路セントラ
ルアーケー
ビ

发行人、主筆
英人エワ
ロン主席記
者

Vincente
Casino

The Callot
The Ukraine

共同租界江
西路ハーレ
トンハウス
四階

ロマンユ
ルダ、アヨ
ドロフ
其の他在滬
知名のウク
ライナ人に
依つて編輯
イナを祖国とす

南京、宣伝部の經
営

發行部
數一千

ウクライナ亡命
委員会の下に統
率される約五百
の在滬ウクライ
ナ人及外廊団体
榜す

ロシヤ人委員会
約五千名の援助

によつて本年七月十五日から發刊された、

Ostasiatischer
Lloyd's
Verden
Deutsche
Shanghau
Zeitung
〔德文遠東
新報〕

共同租界廣
東路二〇四
五樓

主筆
Dr. Horst
Ley

編輯
H. Stein
其の他三名

創刊民国二十五
年(一九三六)一月
民国二十一年
(一九三二)九月二
十七日創刊の上
海德文日报

(Captain Max
H. H. F.

Simon-Eberhard
主筆兼發行人
を引継ぎ改名現
在に至る、

上海に於けるナ
チの機関紙、海通
社電を中心とし
て歐洲問題を中心
とする独逸の
動きに注眼を置
く、支那事變には
嚴正中立であつ
たが最近ではや
し日本側の見解
支持に傾きつゝ
あり、商業の宣伝
に重點を置く、

市外と
して小
型四頁
の畫新
聞を發
行す

Shanghai
Jewish
Chronicle

経営者
レー・ウヰン
(猶太人)

昭和十五年六月

ユダヤ人の立場

発行部

数約三

創刊、
ヒツトラーのユ
ダヤ人追放政策
のため上海に渡
来したユダヤ人
に依つて創刊さ
れ矣、

を代表するもの
にして、支那華東
には中傷的論調、
欧洲戦にはドイツ
ツに有利な報道
をなしつゝある
が、論調は比較的
中立性を帶び

ユダヤ人避難
海ニ万五千の
ユダヤ人避難
民の数に比較
すると發行数
は少ないが、ユ
タマ人は三四家
族合団び本紙を購
読する例多く本紙
の影響は
發行紙数
の約四五倍に當る、

Sheng Kui Morgen Post	佛祖界 啟德郵局 一三〇四	H. H. Ladislaus Max Faerber	
Le Journal de Shanghai (上海報)	佛祖界 大馬路三〇 一三三〇四	社長兼主編 G. S. Morethe	民國十六年 [一九二七]十一月 十日創刊於 一九二七年上旬 フランス商工公 議所所有權獲得 資本金 150,000圓
Laurens J. Cochard L. Chaoud L. P. Messelier 其他五名	總編 J. Cochard L. Chaoud L. P. Messelier 其他五名	G. S. Morethe [一九二七]十一月 十日創刊於 一九二七年上旬 フランス商工公 議所所有權獲得 資本金 150,000圓	アーハス側の現 地国策新聞、ペタ ン内閣の対独降 服後は一層国际 政局の動向を敏 感に反映し日本 側を刺戟する如 く記事を止めて
Moresthe 後文継ぐ	Moresthe 後文継ぐ	Jean Fontenay	該紙は以前 Moresthe 後文継ぐ
			居る形跡がある。 それ以前に於て も中立的報道を行つてみた。

共同組界 Nashia
威海衛路 Pranada
〔我等の眞理〕 ヤングテラ
スニウ

経営者 スナバーナ

白系第二立獲得
得を目指に置く
新蘇的「極東露西
亞青年同盟」の週
刊機関紙にして
其の会員五十名
内外なるも、四百
部を印刷宣伝の
ため各方面に配
布す

Shanghai
Evening
Times
[米拉晚報]
佛租界霞飛
路七十四號
主筆
C.A. Lobar
Rowe

在上海ソ聯邦帰
国希望者同盟の
週刊機関紙、会員
四百名内外に対
し六一七百部を
発行、宣伝のため
各方面に配布、本
年十一月初旬より
親蘇的空氣涌
漫せるため一躍
四百名に達せり
と言ふ。

<p>Shanghai SIOUVE 〔上海報紙社 會〕</p>	<p>佛羅界 里爾倍路 十一三八四 董事</p>	<p>所有人 L.Y.Altadore Kott 月</p>	<p>創刊民國十八年 （一九二九）一 白露系 中立的</p>
<p>New York 〔新道上海 報文印報〕</p>	<p>佛羅界 里爾倍路 十一三八四 董事</p>	<p>R.I.Zaitseff G.A.Sopchini H.Kott R.I.Zaitseff</p>	<p>創刊民國二十四 年（一九三五）一 白露系 中立的</p>

Shanghai
Carry
[上 海某社]

佛祖界霞飛
路七十四號

發行人

Mrs. C. L. Engle

(前發行人)

M. L. Engle

の夫人

經理

B. F. Kinnell

主筆

L. V. Arnold

創刊民國十四年
(一九二五)十
月二十五日萊
別謙(Lambich)
の私人企業民國
二十一年(一九
三二)十一月二
十九日以後副
門引繼ぎ現在に
至

ルーター、国民、同
盟、トランスニコ
スサービス電を
掲載す。

尚ハル。
ン(民國
九年(一
九二〇
年)創
刊)及
天津(民
國十七
年)二五
創刊)に同
様支局
を持つ

1605-1
Daria

福照路六二
○号

主筆
V.A.Chikin

創刊民国二十五年(一九三六)一月

(俄文日報)

福照路六二
○号

(白露人)

蘇聯の宣傳紙と
して在邊最大の

發行部
數約四
千部

ものにして、昭和
十五年十一月初
旬頃より親蘇的
空氣撻頭す、ソ聯へ
領事館より一年

刊は本
年メ一
デ」よ
リ発刊、
附錄と

弗の補助金を受
くと言はれ、又重
慶政府より月額
一千弗の補助金
(月額)を受くと言
はる。

して三、四十頁
程度の
雑誌を
週刊す

[日] 傳 紙

歐洲大戰の激化に伴ひ上海に於ける英國側、獨伊側の宣傳戰が甚かに展開これたが、両側共に大使館、領事館が、中心となり朝刊と夕刊との間をねらひ、正午に四頁内及六頁の宣傳紙を發行し、無料でホテル、飲食店を通じ配布している。

London Bulletin (英)
Morning Extra (英)
Daily News (英)

歐米通社

電報

社

路透電報

社

Reuters Ltd

佛祖界愛
多西路三
四甲
本社廿口
ノドノニ
圖く

極東總支
配人

Selby Walker

(日下ノハ
ガホール

に滞在中)

上海支配

人兼經濟

部廿五

G.C.Bloom

漢口

T.Aldaguer

B.Gearhart

Miss E.Kemp

W.Rosenberg

B.Connelly

W.Lewinbich

在滬活動
始同治十年

(一八七一)

歐洲大戰勃發以
未完全に英國情
報省の機關と化
す。

支社左記の如シ
香港(W.O'Neil)
廣東(W.Farmer)
漢口(C.Hindson)
重慶(L.Smith)
北京()
青島(J.Hartson)
天津()
新嘉坡(C.Graham-Barrow)

美国聯合 通讯社 <i>Associated Press of America</i>	佛羅界 路透社 <i>Clark Lee</i>	支那壁 新華社 <i>M. J. Harris</i>	支那左の知 新華社及肯定し 非當初的な新聞 聯合組織の上に 立つので手固し
美國合聯 通讯社 <i>United Press Associations of America</i>	佛羅界 歐美通訊 人 <i>John Morris</i>	極東扶輪 人 <i>John MacDonga Mex Chaieek W. Briggs</i>	支那左の知 北京(T. D. Whittier) 香港(S. M. Cosa) 天津(W. Penney) 重慶(J. Stewart)

A.D.に對立し、獨
利機関は最も嚴
近セニセイシナ
ナリダムに走る
傾あり、日支問題
に因しては重慶
側を忠誠に力バ
ーす

大英(T. Gibbrook)
福興(G. Baxter)
華盛(F. Bardens)
重慶(F. Fisher)
昆明(T. Engle)
漢口(E. Friman)
最近拉脫維亞

			スケ ハア ニ社 〔伊〕	佛祖野 霞飛路 スニニア アパート 一ノ七四	坂向最 ナサーレ ガリハビル ナ
	美商通馬 社 Burteys Ltd	横浦灘 一ノ七四	社 Marco, S.V. 福村社 Flook, C.G.		
英國快信 社 Fleet News Agency	佛祖界愛 多里路 だ。の 社 B. Hayton Fleet 社 D. H. Fleet				
中央通信社の送 信を直接受信し 華字新聞等の記 事提供は最も積 極的なり個人經 営で速報主義に て新聞社向信用 なし					

通社
Transocean
News Service

佛租界設
立時間三
四年

極東經理
Melchers
Hans H.R.

(一九二八年)開
辦
最初北京に
開設され
一九二八年
上週に後転
す。

獨の南京政府承
認以来奥地特派
員は引揚げ上海
に集結
D.N.B.と对照的
な存在にして、D.
N.B.の官報的な
のに対し速報主
義にてセンシヨ
ナルモニース
の確実性なし、
独政府はこのこ
通信社の巧なる
使われによつて
宣伝の効果をあ
く。

支社左記の如く。
漢口(A.W.Bahnsen)
昆明(Ming-Teh-Chen)
庄河(W.Lange)
北平(Ming-Teh-Chen)
バハム(K.Melchers)
新嘉(J.Newell)

天津
廣東
東京

通社
O.Bockow
R.King
H.Klinecke
H.Ross
W.Trendel
Mrs.Tonne

上週に後転
す。

		廣原館 七五三 本社 ルリハル 圖々	牧社 Glimpt, F.H. 演題 Laverentz, K. Eselmann, Th. Dr. Herbert Mueller Wolfgang Schenken	民国二十三 年創辦 獨政府の御用機 関でトランスオ ーシャンの速報 主義に対し官報 的な色絵あり、 独ソ戦の激化と 共に政府の对外 用宣伝發表を多 く扱ふ	牧社北原 Dr. H. Muller 南原 E. W. Berg 新原(英漢題) M. Boekenkamp
International News Service 〔スロボ ールホテ ル内〕	西路 都成飯店 〔スロボ ールホテ ル内〕	牧昭岐 M. Ford	通信社としての 歴史も浅く徹底 的な速報主義な ので各新聞社間 に信用なし、例へ ば伊太利参戦の ニュースも他社 を三時間ひそ巨 しおが、当地の各 紙は他の通信社 のニュースが入 るまでは使用し なかつた。	通信 重慶(Jack Belden) 北碚(John Goettie) 香港(S.K. Wa)	牧社北原 Dr. H. Muller 南原 E. W. Berg 新原(英漢題) M. Boekenkamp

I.N.S. のニン
スによればヒッ
トラー總統は歐
州戰開始以来す
でに三四回は暗
殺されてゐる。

哈互斯通
訊社

佛租界
匯亞路

極東支配
人

Agence Radio
Indo-China

北京 T.Bardac

Pacific 時報社

重慶 R.Watson

Chang Yen

Chow

天津 T.Lapine

ハルピン支社

有

(Havas
Te/lemon-
dial)

九〇四
編輯社

J.Tolson
曉報

A.Geonaga

提供す
中国ニンバーカ
獨降服後は政
治的色彩不鮮明

となり政治的よ
りもファイナル
物多く社会種式
のもので間接
的に國際問題を
取扱い傾向あり

			ドロール派の通信社にして不定期的に通信を発行す。
Agence Francais Indépendante	佛羅馬 霞多麗路 三國號	Jacques Marcuse 編輯 R. Pierard	主任 (兩者共に) 前ハバス 特派員
塔斯廣 社 Tass News Agency	黃浦灘路 二六號	技術人 Report 上澳通德報 A. Berhoff A. Vichlaer 北京にも 特派員を 有す。	民国二十一 年(一九三三) 三月創辦
塔斯廣 社 Tass News Agency			ソ聯唯一の通信社にして其の郵便物は並比利益経由にて授取され、電報は大北電信会社(デンマーク)より送受するソ聯機関モスコーイズベスチヤに最も密接な關係を有し、ソ聯に於ける一、四〇〇的新聞社にニコースを
			対独戦開始以来積極的に上海に於ける宣伝戦に乗り出し英文サービスを拡充し同時に英字紙に對し宣伝的眞提供を開始した。

在
上
海
外
紙
特
派
員

T. Ahlers (上海)	Economist (London)
V. Alessi	Corriere della Sera
D. Robertson	New York Times
A. Finch	London Daily Mail
R. Gilles	Le Temps
F. Opper	Christian Science Monitor
J. Hoste	Exchange Telegraph
V. Keen	N.Y. Herald Tribune
P. Messalier	Petit Parisian
J. Powell	London Daily Herald
R. Shaw	News Chronicle
W. Sorge	Berliner Lokal-Anzeiger
A. Steele	Chicago Daily News.

租界に於ける放送宣傳の狀況

支那に於ける放送事業の發達の歴史は拾五年を経過してゐる。民國十一年（一九二二年）に米人アンフン氏は支那資本に依り上海に中國無線電公司（五〇ワット）（註、上海の永安ビル内）が創設されたのが放送局の嚆失であらう。續いて民國十三年夏在上海米人經營ケロッグ會社が一〇〇ワット放送局を設立し、後に二五〇ワットに強化し廣告とレコード放送を實施するに至つた。（註、該局は民國十八年に閉局するに至つた）新聞社で自體の電台を設けたのは申報館で民國十三年のことである。

降つて民國一六年華商新々公司が上海に五〇ワット放送局を設置、廣告並にレコード放送並に株式市況及ニュースを實施するに至つて一般民衆の關心をそゝるに至つた。

組織し支那人間にも中國播音協會が程なく、上海の外人は中國播音協會を組織されたがこれは各放送局の組織化、聯合化への嚆失であつた。降つて民國十八年三月華商亞美公司經營の上海廣播無線電台（空中線出力五〇ワット）が放送を開始した。且この二局は現在も放送を繼續しつゝある。（以上民國二十五年九月一九日中央廣播事業管理處刊行「廣播周報」による）

放送局の濫立期に入るに及んで國民政府は民國二十一年一月廿四日（第

一次上海事變に依る) 交通部に二十八條より成る取締り規則を布告するところがあつた。(註、現在この取締り規則は事實上無効となつてゐる) 斯くして中國の放送事業が急激に増大したのは極く最近のことと別表の一覽表に依つても察知される如く民國二十二年以降特に烈しく、そうしてその中心は言ふまでもなく上海である。

上海に於ては一九三四年來(民國二十三年)佛租界共同租界並其の他地域に於ける電台數は計四八局であるがこの亂立の狀態を統一する爲に上海に強力なる電台設置を必要とするに至つて交通部は一九三五年、外人經營のシャンハイ、ラヂオ、ステーションを買収した。

(*Reconstruction in China*. China United Press, 1935 に依る)

今試みに中通資料第四八號(昭和十一年發行)の「支那無線放送情勢」に依つて見ると、民國廿五年七月現在上海に於ける放送局は三七局で全支について八八局であるからその比率に於て上海が如何に放送事業の中心であるかがそれに依つても伺ひ知れよう。更に別表の一覽表に對照して見ると事變後新設のものを加へて現在合計數三九局を算するから上海に於ては事變後と雖も些もその數に於ては衰退してゐないことがわかつ

つである。

放送事業が有力な宣傳の武器として利用されるやうになつたのは民國廿年南京の中央廣播電台が活躍を開始してからのことである。今とゞに民國廿六年二月發行の廣播事業管理處の工作報告によつて事變直前の放送工作の情況をのぞいて見るに、技術面に於ては「上海に處員を派し、正音電台を設けて、大東放送局の不法（？）放送を妨壓する」等とあり、更に工作方面に於ては

一 放送のプログラムはニュース、教育、宣傳、常識、講演、音樂、京劇の八種で、編輯の方針は民衆精神の發揚、實用知識の注入、高尚な思想の培養の三點に重點を置く。

二 近來講演のプログラムは名士の學術講演の外に英語講演を設け、中
外人士を聘して中國學術文化の各種問題に關し、その開場に資する
講述を行ひ、又大衆に系統的な知識を得させるため、毎週連續的の常識
講座を設け衛生、体育、科學等十餘種を放送した。

三 國樂を積極的に提唱することを研究中である。

四 話劇は普通的な宣傳に資するため、毎週二回行ふ。劇本は自編し、

又稿本を選擇改修して放送したもの九十餘種に上る。

査

其前年の既定方針に基いて、國內外の放送局の番組内容を偵^査してゐる。國外のものはその宣傳が中國に有利なりや否やを察し、國內のものはその内容の是非を判断してゐる。且つ中央廣播事業指導委員會が定めるところに合致するや否やに依り糾正乃至取締りの参考としてゐる（「蔣介石政權の宣傳」西村捨也氏譯を轉載）とあり、重慶政權が如何に放送を利しての民衆啓蒙と宣傳に躍起しつゝあつたかが伺ひ知れるのである。

蔣政權の放送による宣傳の概況は民國十七年八月一日に放送を開始した中央廣播電台の放送狀況を調査することに依つて判明するであらうが前掲の工作報告に依つてもほどその一端を推察し得ることゝ思ふ。支那事變勃發後放送の國際宣傳は一層の活潑さを加へ、南京の中央電台より盛んにデマ放送が行はれたのは周知のことである。重慶側が對外宣傳上最も重視してゐるのは放送を利用する宣傳であつて、重慶政權が奥地敗退の已むなきに至つた現今に於ても、特に上海のもつ國際的環境に鑑み懸命の努力を傾注してゐる。

黨中央宣傳部副部長であり國際宣傳處長たる黨顯光の上海潛入の事實はこれを裏書きするものである。然しながら事變後我が方の廣播電台監督處の設置に依り放送の一切に關しては、その權力下に統轄されるに至り、一九三八年（昭和十三年）月 日次の如き「民營廣播無線電台取締規則」を布告して嚴重監視以來公然たる反日的放送は終熄するに至つた。然しながら法人（法籍）（呼號 F F Z ）大美晚報（美籍）（呼號 X M H C ）華美（美籍）（呼號 X M H A ） X I R S （伊大使館） X R V N （露タス通信社の以上五局は我が方放送監督處の監督を拒否しつゝある未登記電台であつて、獨自の放送に依り中支民衆に對して宣傳的役割を果しつゝある現狀である。其他外國籍のものが二三あるが（後尾一覽表參照）單に名目のみで實際は支那人の經營するところのものである。重慶政權の躍起の宣傳工作にも拘らず概して上海に於ける放送工作は我が廣播電台監督處の嚴重なる取締りのために宣傳機關としての機能は二三のものを除いて他は全く仰制せられるに至つて居る。

参考の爲に上海（民主電台（呼號 X C D N ）（ノース、チャイナディーリーニュース經營）の毎日固定節目を掲げよう。

午前

七時三十分 國樂

七時四十五分 北京語ニユース

八時 ○○分 歌曲唱片（流行歌）

八時三十分 華文講座

九時 ○○分 什曲（雜曲唱片）

九時四十五分 金融報告（市況報告）

十時 ○○分 平劇唱片

十一時 ○○分 上海語ニユース

十一時十五分 說書（汪梅韻彈詞）

十二時四十五分 流行歌曲
北京語ニユース

午後

一時十五分 外國節目（故事、其他）

四時三十分 兒童故事（子供の時間）

四時三十分 兒童故事（子供の時間）
五時 ○○分 音樂（西樂、國樂）

五時二十分 上海語新聞

五時三十五分 平劇唱片

六時 ○○分 北京語新聞

六時十五分 時事講述

七時 ○○分 電影歌曲

十一時 五十分

西語節目

十二時 ○○分

上海語ニュース

(以上正言報所載「反浸略電台節目表」ヨリ)

以上概説した如く在滬電台の宣傳機關としての機能は相當抑制される現狀であるが、重慶方面よりする對外放送は相當猛烈で、中支方面に取つてもこれを度外視するわけには行かない。即ちその最も代表的なるのは重慶中央電台（呼號 XGOA、波長九、七二〇M^c）重慶國際電台（呼號 XGOK 及 XGOT、波長一五、二〇〇及九、六三五M^c）で其他貴陽貴州廣播電台（呼號 XPSA、周率八四六五、波長三五、四M^c）昆明廣播電台（呼號 XPERA、長波周率六九〇K^c）

成都廣播電台（呼號 X G O G、周率六五〇 K C）

永安福建廣播電台（呼號 Y G O L、長波九五〇 K C、短波一〇〇五〇 M C）

江西廣播電台（呼號 X G O C、周率九六〇 K C、三一二、五 M）

香港廣播電台（呼號 Z E K、波長三一、四九 M）である。
参考の爲に重慶中國國際廣播電台の節目表を掲げよう。

重慶中國國際廣播電台節目

「對歐州（二十五公尺定向）

午前 四時〇〇分 俄語時事述評（週一週三週五）

法語時事述評（週二週四週六）

音樂特別節目（星期日）

四時十五分 英語演講

四時三十分 英語ニュース

四時四五分 音樂節目

四時五五分 國歌停止

二「對本國及南洋（四十九公尺、不定向）

午前 五時〇〇分 記錄ニュース（聯播中央電台）

六時〇〇分 國歌、停止

三對亞洲 洲紐西蘭東俄 (三十一公尺、不定向)

午後 七時〇〇分 國語ニユース

七時十五分 英語ニユース

七時三十分 滬語ニユース

七時四五分 俄語ニユース

七時五五分 國歌、停止

四對日本 (三十一公尺、不定向)

午後 八時〇〇分 日本音樂

八時 五分 日語演講

八時十五分 西樂

八時二十分 日語ニユース

八時三十分 日語特別節目

八時四五分 停止

五對東亞 (三十一公尺、不定向)

午後 八時四五分 音樂(週一週三週五星期)

九時〇〇分

泰語ニュース（週二週四週六）

九時四五分

國語演講（聯播中央電台）

六對南洋

午後

九時二十分

法語ニュース

九時三十分

英語ニュース

九時四五分

粵語時事講述

十時〇〇分

客語時事述評

十時一五分

閩南語時事述評

十時三十分

馬來語演講（週一週三週五）

阿刺伯語演講（週二週四週六）

音樂特別節目（星期日）

十時四五分

荷蘭語時事述評

十時五五分

停止

七對北美洲（三十一公尺、定向）

午後

十一時〇〇分

英語ニュース

十一時十五分

音樂節目

十一時三十分

英語演講

十一時四五分

粵語ニユース

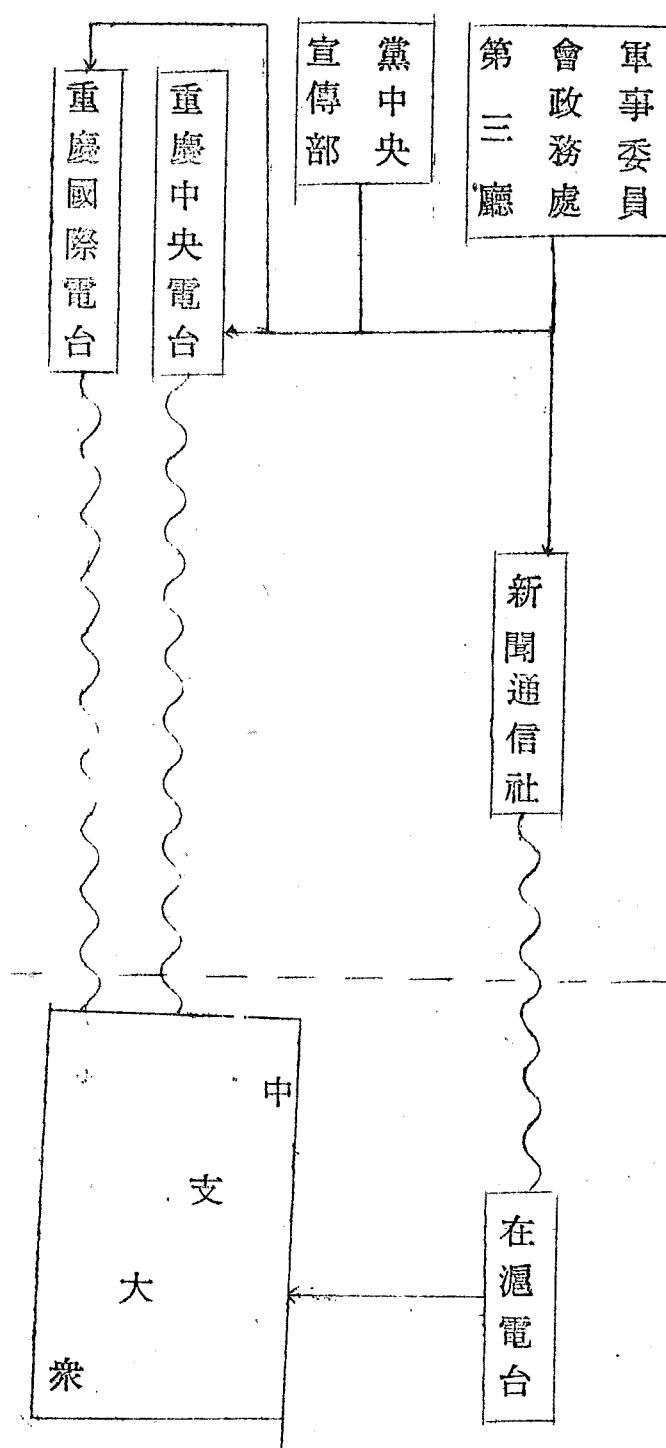
十二時〇〇分

英語記録ニユース

十二時二五分

國歌、停止

試みに重慶側の宣傳網を圖示すれば次の如くである。
（正言報八、二七、二八所載反浸略電台節目表ヨリ）



次に掲げた放送局一覧のA表は事變直前のもので、中通資料四八號（昭和十一年發行）のものを基礎にして尙、地點、符號、中止のものに對して訂正を加へたものである。B表は現在放送されつゝあるものである。

A 表	(×印は中止もの)						
局名	呼號	地址(所屬)	成立月日	周率	電力W		
×上海廣播電台	X H H S	江西路三二三（民營）	民國二八·一二	一一〇〇	二三六		
×上海大中華	X H H U	南京路五〇一（〃）	一九·三	八四〇	一〇〇		
上海大陸	X H H K	北京路中法藥房（〃）	二四·八	一三四〇	一〇〇		
×上海麟記	X Q H G	西倉路蓬 路（〃）	二四·三	一二三〇	二五〇		
×上海元昌	X L H M	菜市路三讓坊七（〃）	二三·一	一四八〇	五〇		
上海中西	X H H L	四馬路中西大藥房（立）	二二·四	一〇四〇	一〇〇		
×上海中華		大世界五樓	一一四〇	一〇〇			
研究社	X H H L	愛多亞路中南飯店（〃）	二二·一	七八〇	一〇〇		
上海友聯	X H H V		二五·三				
上海市政府	X G O I	市中心區上海市政府（〃）					
上海市音	X H H R	公共租界卡德路二三一					

X 上海同樂	X L H C	望雲路一二八	七一〇	五〇
X 上海交通部	X Q H G	南京路沙遜房子(交通部)	二四·三	一三〇〇
X 上海李樹德堂	X H H E	上海新旅社三樓三一六	一八·一〇	九四〇
X 上海安定別野	X H H D	新聞路福康路一五		八六〇
X 上海利利	X H H Y	靜安寺路三九五(“)	二二·一〇	一二四〇
X 上海建華	X H H B	福熙路多福里三六(“)	二二·一	七四〇
X 上海東港	X L H G	江路二四五〇東方旅社二三·四	八六〇	一〇〇
X 上海東方	X H H G	廣東路七三一(民營)	一一〇·三	
X 上海明遠	X H H F	湖北路一三三一(“)	一一·一二	九六〇
X 上海周協會	X L H I	新開路鴻祥里三五弄七		一〇〇
X 上海佛立日	X M H B	赫德路四一八(民營)	一一·四	九八〇
X 上海亞東	H L H J	慕爾鳴路康樂四七(“)	一一·一	七六〇
X 上海亞聲	X L H N	貝勒路三五九(“)	一一·一	一一一〇
X 上海啟本	X L H L	民國路四四八弄一	八〇〇	一〇〇
X 上海航業	X H H Z	廣東路航運俱樂部(“)	二四·一〇	一一八〇
上海國華	X H H N	六馬路中央飯店(“)	二三·一	一一〇〇
				一一〇〇

× 上海 惠靈	X L H F	光啓路裕成里	一三八〇	五〇
× 上海 華東	X Q H D	廣西路四六五 (〃)	二二一・六	一三六〇
× 上海 華美	X H H I	南京路五六五 (〃)	二一・一〇	一〇六〇
× 上海 華泰	X L H B	廣東路天一號	一一・	一〇一〇
上海 華興	X H H P	青島路一九 (民營)	二三・三	一二六〇
× 上海 華僑	X M H E	愛文義路柳二三 (〃)	二三・一	七〇〇
× 上海 富星	X H H X	葛羅路九四 (〃)	二二・六	九二〇
× 上海 新聲	X L H E	漢口路 A 九號	一三八〇	五〇
上海 新新	X L H A	南京路新新公司 (〃)	一七・	七八〇
上海 福音	X M H O	博物院路一二八 (〃)	二三・一二	七六〇
上海 鶴鳴	X L H Q	中華路小西門祥成里	二〇・	一四四〇
		一一 (〃)		三〇

次表のうち X I R S は伊太利大使館の宣傳機關にして昨年來より短波放送を開始した。X R V N (ソ聯) は去る八月三十一日午後五時より「ロシヤ語」上海語及北京語の「ニュース」放送を開始。(目下試験放送中、英獨露支)

B 表

上 海 廣 播 電 口 一 號 表

國籍	名稱	呼號	週率	電力	負責人	地址	電話
英	民主	XCDN	一四〇〇	100	ONSKERPER	南京路華懋飯店四樓四三〇號	一六九八六
法	法人	FEN	一四〇〇	100		霞飛路一九三三號	八〇五六七
華	光明	XHHX	一三八〇	100	黃寅初	南京路三五三弄慈淑大樓五樓五三三	
華	好友	XHHD	一三六〇	100	孫愛忠	貴州路七七弄一二號	九三一三六
華	華英	XHHD	一三四〇	100	陳顯宗	漢口路四四一號同安大樓五樓	九七一五三
華	大新	XHHO	一三二〇	100	劉春山	南京路八一九号三樓	九五八四六
華	天蟾	XQHG	一三〇〇	100	劉春山	南京路四五五弄二樓	九三六五八〇
華	大亞	XHHC	一三八〇	100	許勁先	九江路一九三號	三一六三七
華	華興	XHHP	一三六〇	100		青島路一九号	
華	利利	XHHY	一三四〇	100	胡志權	靜安寺路三九五號	三〇一三二
日	新声	XQSS	一三一〇	100	池田安彌	南京路四二三號二樓	九一〇六八
華	國華	XHHN	一三〇〇	100	陳子禎	廣東路五四五號中央大旅社六二號	九八二三一
華	航業	XHHZ	一三八〇	100	潘塗生	浙江路一五九號神州旅社屋頂	九九三一〇
華	精美	XHTM	一三六〇	100		愛文義路一三〇號甲惠旅醫院樓上	九九三一〇
華	大美	XHHM	一三四〇	100		靜安寺路一號新世界飯店四樓	九三七二四
瑞	士	XHHJ	一三一〇	100		南京路四七〇號	九三六二六
華	新華	XHHJ	一三〇〇	100	徐天生	福建路八一二號太和大樓七樓七〇一號	九七七二三
瑞	士	XQCT	一〇八〇	100	JUSUNIER	福建路八四〇號三樓一七號	九三八五九
意	亞開	XQHT	一〇六〇	100	LIEJOVINO	福州路三三三號中西大藥房	九八二六〇
華	中西	XHHJ	一〇四〇	100	鳥麗誠	南京路五七九號上海新旅社三五號	九八二六〇
華	華泰	XLHB	一〇二〇	100	陳廷禎	廣東路一六一號	九八二六〇
華	大華	XHHE	一〇一〇	100	朱福釣	九江路五七九號上海新旅社三五號	九八二六〇
華	明遠	XHHF	九六〇	100	索德隣	湖北路一三二號	九四四四八
華	上海	XGOI	九〇〇	10000	R.ROBERTSON	南京路二三三號哈同大樓三三〇號	九四五三四三
華	東陸	XLHG	八六〇	100	張錦伯	浙江路二四五號東方旅舍	九〇一〇三
日	雷通	XHHR	八四〇	100	宮原貞治	靜安寺路五一七號三樓	三七四三七
美	奇開	XQHB	八二〇	100		法界路主教路二七四號	七四三九九
華	新新	XLHA	八〇〇	100	鄭家駒	南京路七二〇號新新公司六樓	九七三〇四
美	福音	XMHM	七六〇	100	國治	愛多亞路五六〇號中南飯店	九二二六〇
華	建華	XHHB	七四〇	100	VANHETER	博物院路一二八號七樓	三二三二三
美	申美	XMHM	七二〇	100	E.L.HEALEY	福煦路五〇四弄三六號	一三六六一
華	大東	XGRS	六〇〇	1000		湖北路一三一號安東大旅社樓上	九五九〇九
美	晚美	XMHM	六〇〇	1000		楊樹浦路三四〇號	八四〇八〇
華	遠東	XHHK	五七〇	100	H.WENDT	大西路一號四樓五號	三一二三四
美	中華	XHHK	五五〇	100	劉重恒	南京路四七〇號	二〇〇二六
意		XKVN			白費仲路三四、(夕々通信社)	九三六二六	

租界に於ける支那映畫界の現狀

上海に於ける支那映畫界の現狀を検討するに當つて、支那映畫の發展過程を一瞥して見よう。

支那に映畫の輸入せられたのはスペイン人A.ラモスの手に依り光緒二十九年（一九〇三年）であつて、（上海研究資料續集、民國二十八年刊）この公開上映が上海に於ける支那映畫史を飾る第一頁であろう。

映畫輸入と同じく、最初の支那映畫の製作も又米商により宣統元年（一九〇九年）に上海に於て行はれた。（亞細亞公司）

爾來支那映畫は上海を中心舞台として發達し來つた。
張北海は支那映畫の發達に關して次の如く述べて居る。

「即ち數年前は全支に數へる程の映畫しかなかつたが、現在では三百二十を突破してゐる。又百餘のスタヂオが四百萬元以上の資本に依つて建てられた」と。（英文中國年鑑、一九三七年版）

この三十年間に於ける支那映畫の發達を鄭君里は「近代中國藝術發展史民國二十四年刊」に四期に分けて（民國二十一年まで）敍述してゐる。勿論この見方は再吟味を必要とするのであるが、参考の爲に別記して見よう。

第一期 宣統元年より民國十年まで。

「歐美の投資に依る影響下に中國映畫が製作された。言はゞ萌芽期であり、ニュース、風景もの、馬鹿騒ぎの喜劇、文明劇又は舊劇であつた」。

これは當時の支那の國內情勢が清朝の崩壊に直面して、最も混亂の甚だしかつた時代を反映してゐる。當時映畫劇場は上海に於て七ヶ所であつたが、殆ど外國映畫を上映してゐた。

第二期 民國十年から民國十五年まで。

「映畫の繁盛期で時事もの、社會教育もの、戀愛もの、戦争ものが作られた」。

この時代は排外的な民族運動が全支に澎湃として勃興し、蔣介石の北伐に依つて、一應の完成を見た時代である。國民黨も又支那統一運動のために、最大限に映畫を利用したのであつて、映畫の内容に於ても又技術の上に於ても相當の進歩を齎らした。特に指摘すべきことは上海に始めて支那映畫のみの上映館、中央大戲院が支那映畫企業家の手に依り、生れたことである。

第三期 民國十五年から民國十九年まで。

「土著映畫の中落期で、裨史もの、武俠もの、神怪もの、探偵もの
を主とする」

第二期の繁盛期は北伐完成に依つて、南京政府の樹立となり、民族革命
の文化運動に對して反動となつて現はれた。従つて、映畫もその餘波を
受け商業主義的製作に脱し沈滯期に入つた。

第四期 民國十九年から民國廿一年まで。

「土著映畫の復興期であり、既設の映畫社は合併、トーキー映畫の
出現、滿洲、上海兩事變發生に促され、多く意義ある作品が製作
された」

滿洲事變の端緒として勃興した、排日運動は映畫界にも新な息吹をふき
こんだ。小資本のプロが新華、華新、華成、國華、藝華等の大資本の五
大會社に合併されたのである。

更に上述の第四期に於ける特性は今次支那事變の民國二十六年前まで
續き、抗日映畫の續出となつて現はれ、土著映畫は社會的宣傳性をもつ
て至つた。即ち「漁光曲」、「姊妹花」の如き傑れた作品もこの時期のもの

であり、其の他「時勢英雄」「新舊上海」「凱歌」「到自然去」更に「迷途的羔羊」等がある。

特に「漁光曲」（シナリオ、監督共に蔡楚生）「迷途的羔羊」（原作が丁伶監督蔡楚生）はソ聯その他國際場裡に進出し、支那映畫の質的向上を世に認識されたのであつた。又この期間に進歩的映畫批評も生れたのである。

事變前年に於ける主要な支那映畫會社は上海に於て次の如きものであつた。

藝華 新華 明星 電通 文化 聯華 天一 上海有聲 大華影業

吉星影片 群生電影 職業電影 華成 國華 華新

斯くの如く支那映畫會社は殆ど上海に集中されてゐた。従つて監督から俳優に至るまで盡く上海に集中してゐたのであつた。

そのうち監督、シナリオ、ライターとして今次事變前まで映畫界を指導してゐたものは、張石川、歐陽子倩、姚翠農、王統照、田漢、老舍、李健吾、馬彥祥、鄭伯哥、顧仲彝、李萍倩、吳村等である。

次に参考のため映畫製作表を掲げよう（中國英文年鑑、三十八年版）

一九三三年度

九二本

一九三四年度

一〇二本

一九三五年度

五二本

一九三六年度

四九本

右表に見られる如く量的減少は顯著であるが質的には可成りの進歩があつたことを見落してはならない。

斯くて支那映畫の復興向上期は事變前年を頂點として混亂動搖期に入つたのである。日本軍に依る上海周邊占領後、支那映畫は全滅の悲運に曹遇し優秀映畫人の奥地逃避を招いた。この間にあつて、中心的指導地位にある上海抗日映畫人は「上海電影工作人協會」を組織したが、外的社會情勢に壓迫され、内紛に終始し、潰滅状態を招來した。廿七年十二月八日の上海各新聞は「警告上海電影界」なる記事を掲載して、その不滿を吐露した。この告文は上海の各紙副刊編輯主任五十餘名の連名で次の如きものであつた。

一 資本の來るところ不明の會社と合作しないことを誓ふこと。

二 神怪映畫及非常時期電影検査條令に違反する一切の撮影を拒絶する。

三 激勵向上の積極的な意味を有する映畫の撮影に盡力すること。
斯くの如く革新の聲の盛んであつたにも拘らず上海映畫界は民國二十八年九年を通じて今日に至るまで依然として映畫の製作傾向はその行くべき目標を失つた形で、商業主義的な大衆娛樂本位のものが壓倒的である事變直後の八ヶ月に於ける上海の各製作會社は全く製作を中止するのみなきに至つた。民國二十八年三月に至り「新華、華新、華成」はアメリカ人辯護士を名儀人として、三社を併合中國聯合影業公司の成立を見るに至り、辛じて製作を開始するに至つたのであるが、その他藝華國華も辛じて製作を開始した。

次に民國廿八年度の各映畫會社の作品表を掲げよう。

華成	現代物	一本	時代物	二本
新華	"	四本	"	四本
新華	"	六本	"	三本
藝華	"	七本	"	四本
國華	"	六本	"	四本
天聲	"	一本	"	一本

林 華	現 代 物	一 本
小 計	"	二 六 本
總 計		時 代 物 一 七 本 四 三 本

以上の如く約四割の十七本が所謂神怪もの、古装片で六割の二十六本が時装片であるが、民國廿八年の上海映画界の一般的傾向としては時代物の抬頭が挙げられる。この原因としては各社は検閲を避けるために傳奇小説を根據とした比較的無難な時代物を擇んだと言ふことが考へられるが一般民衆の要求にも原因が求められるであろう。この傾向は恰も兩後の筈のやうに民國廿八年夏頃から廿九年の秋迄この種作品は各上映館に横溢した。

更に物價高騰に伴ひ生フィルムの高騰に依つて各映画公司は相當の苦境に立ち至り、二萬尺を一萬尺乃至一万五千尺に縮少せざるを得なくなつた。日本製のフィルムは此の機に摺頭し映画業者はこれを採用するに至つたことは廿八年度に於ける著しい變動である。

次に民國二十八年中に於て最も興行成績を挙げた映畫を列記しよう。

			製作公司	監督	俳優	上映館	續映日
播音台大血案	新地獄	小奶奶的扇子	木蘭從軍	李三娘	雲裳仙子	木蘭從軍	八十五日
華新	楚霸王	珍珠衫	從軍華	三重天	三娘	成國華	三十九日
徐欣夫	王霸	新珠衫	華國華	皇后天	岳楓	萬蒼ト	三十六日
	王藝	新華	新華	國華	張善琨	萬蒼ト	
	新華	新華	新華	華	張石川	萬蒼ト	
	吳村	李萍倩	吳村	梅白	梅喜	萬蒼ト	
	徐欣夫	王次龍	徐村	風周	陳燕燕	喜、璇	
	顧蘭君	袁美雲	徐風	、周璇	梅喜	璇	
徐華園、龔秋霞	舒適、周旋	陸路明	袁美雲	、周璇	、陳燕燕	璇	
新光	金城	新光	新光	、周璇	、陳燕燕	璇	
二十一日	二十一日	二十一日	二十一日	二十一日	二十一日	二十一日	二十一日

新	華	華	會	國	藝	時代物
華	新	成	衆	華	華	現代物
二	九	一	一	五	六	一二
一	二	二	二	三	三	現代物
民	光	華	華	金	華	時代物
華	華	華	華	星	美	明
一				二	一	二
				一		時代物
				一		現代物

民國二十九年慶各社作品數

右表のうち「木蘭從軍」は二十八年度のヒット作品であつて、重慶に於て問題を引起したことは周知の事である。支那映畫批評家はこれを「古裝映畫を新しい軌道に導いたもので、歴史的な原因をたくみに生かし、目下の現實と接觸し、積極的暗示を含だものである」と讃美した。

前述の二十八年度に見られる時代物拍頭の傾向は民國二十九年に入つてから益々拍車を加へた形であつて次に掲げる作品數一覽に見られる如く時代物全盛時代を現出した。

民國二十九年度ヒット作品を擧ぐれば次の如し

映 畫 名	製 作 公 司	監 督	上 映 館	時代物		現代物	
				一	小計	五三	一一
雙珠鳳（上下集）（時代物）	華成	楊小仲	新光				
瀟秋雨	華成	卜萬蒼	滙光	三十二日			
蘇武牧羊	華新	卜萬蒼	滙光	二十七日			
西廂記	國華	張石川	金城	二十二日			
				四十二日			
					總計	五四	

製作動向としては略左の數項が擧げられる。

一、「女傑美人映畫」

古裝美人又は女傑で一般觀衆を誘致するもの。

二、「偉人英雄映畫」

民衆の周知する偉人英雄の映畫化。

三 「傳奇映畫」

怪異神寄物語の映畫化。

四 「舞場、實演名優の映畫」

民國二十九年中に於ける一般的傾向としては製作量の増加、一般觀客の急増、それに伴ふ質的衰微などが上げられる。大量に完成した作品が各館に上映され、相當な興行成績を收めたことは製作者をして益々温適に拍車を加へせしめたのであるが、この原因を、電影日報所載の一一年來の上海中國映畫」の言ふところを要約すると次の如くである。

「高遠度に質が底下したことは上海中國映畫には常に健全な劇策がないことである。製作者の意志の不健全も原因の一つであるが、一度外界の壓迫を受けると動搖し、初めは反抗を試みたが後に至つて、「下劣な手段」で彼等は自分の地位を保持した。實に觀客の趨勢としては上海周邊の戰火から上海に集中した彼等土豪が珍しい都會の各種娛樂に浪費することは敢へて驚くに當らない。映畫そのもの、封建的物語が彼等の封建思想に一致したからである。

「大衆物語映畫」が絶大な興行價值を博したゝめにこれに大童となつて製作に専念した結果である。又健全な編劇家、監督、俳優、カメラマン等の幹部人材の缺乏も原因であるが殘存映畫人の軟弱性が挙げられる。更に又映畫批評家の教養の底下と良心的（彼等の言ふ）なものがないこと等である」

更に新映畫製作公司の創設も夥しく例へば周劍雲の金星影業公司、續いて民華公司、合衆公司、春明、光華公司等が新に設立された。又俳優の乏しい現狀から各映畫公司はこの方面の發掘に専心し、殊に新人講習所を設けて彼等の養成に努めた。又舞台劇人氣俳優の映畫界登場なども一九四〇年に於ける特色である。（殊に孫景璐等はその一例である）

今次事變に依つて解散した上海電影公會（映畫組合）が六月十八日復活を見るに至り、各製作公司の作品は製作するに當つて、予め作品内容脚本及台詞を組合に提出して登記することなどは、前述の作品の質的底下、製作動向はとに角として混亂動搖の中から漸次復興を辿りつゝあることが伺れるのである。

斯くして上海映畫界は一九四一年を迎へてから各製作公司は製作方針を

變へて今迄の時代物から一氣に現代物の製作に専心した。この原因としては種々考へられるであらうが、「電影日報」三月二七日所載の「現代物映畫の製作趨勢」の言ふところは

一 諸物價の急激な騰貴に依つて時代物に使用する道具、服裝、其の他出費が膨脹したこと。

二 時代物を見あきた觀衆は現代物に多大な歓心を有するやうになつた（例へば「奏准世家」「紅杏出牆記」等は何れも非常な好評を博したもの）事などにその原因を歸してゐる。

一九四一年一月より五月上旬までの各社作品數

		國聯			現代物			
		華成	華藝	華華	國聯		時代物	
新華	二	六	八	五	三			
一	二	六	三	二	二			
電通	明星	美華	新華	金門				
一	二	一	五	一				
				二				

			現代物	時代物			
			合衆	二	聯華	小計	現代物
			金星	二	聯華	一	時代物
國華	同	藝華	製作公司	映畫名	監督	俳優	現代物
國華	後篇	千里送京娘	「西施」(時代物)	張善琨	梅熹	上	時代物
		(現代物)		卜萬蒼	袁美雲	映館	
			文逸民		大上海大戲院		
國華	紅杏出牆記 前篇	張石川	李麗華	賀賓	一月二十日		
	(現代物)		周璇	白雲			
同		一月二十六日					
同		金都大戲院	國聯大戲院	(二十六日 間續映賣上九萬弗)			
三月三日金都大戲院	間續映賣上十五萬弗						

自昭和十六年一月至五月上旬ヒット映畫を學くれば次の如くである。

香港から輸入され上海に於て封切られたものに次の如きものがある。

月明 一本（現代） 聯安 一本（時代） 金剛 一本（現代）

南洋 一本（時代） 大華 一本（時代）

以上事變前の支那映畫の製作動向と事變後の動向を概説したが、一九三八年夏頃から映畫事業の復興を見て以來舊影業公司の復活の外新に出現した公司は恰も雨後の筈の如くである。各公司は中國映畫有史以來曾て見られない同一作品の競作を演じ僅か一週間足らずに一作を完成したと云ふ珍現像は決して珍しくない。事變直前を頂點として盛り上つた支那映畫界は當時、抗日文化界の批評家達から「支那映畫界は抗日文化戰線の最も弱い一環である」と指摘されたと言ふ事實は注目に値するが、現在のその儘その弱体を暴露し全く製作の目標を失ひ動搖の渦中にある。現在支那映畫をして抗戰理論の上に持ち來らさうとする極一部の論者もある事は否めないが、全般的に映畫從業員の如何ともし難い思想的動搖は全く蔽へない現状であることは支那側映畫關係出版物の中に彼等自らが告白してゐることを見ても肯けるであろう。

このことは過去三ヶ年に亘る政治的環境の變化にも可成影響されたので

あるが現實的には企業的危険を冒してまでも政治的思想的映畫を製作する事に根本的の制約があると言ふとともに大なる原因の一つに歟へられる。これはとりも直さず觀客としての一般民衆の映畫觀賞の所在を示すものであるとも言ひ得られる。又一つには日滿支合同の下に設立された中華電影公司の租界に於ける發展的進出にもよるところ大であらう。

斯くして事變直前の支那映畫の思想性、政治性を全く喪失し、單に營利以外の何等の目的もない卑俗な商業主義に墮してしまつたことは以上の状勢のしからしめたことであつて、何等あやしむに足りないことであるが、平和の旗織の昔く翻つた今日斯る混沌動搖の中から彼等の今後の行くべき目標は現實生活に根を置いた映畫の製作に必然的に移行するであらうことが觀取されるのである。

附

中國映畫封切館並映畫館一覽

上海中國映畫封切館一覽

202

映 畫 館	成 立 年 月	經營者	上 映 系 統	所 在 地
新光大戲院	一九一五年	芮慶榮	共同租界寧波路五八六號	
滬光 "	一九三八年	史廷盤	佛租界愛多亞路七二五號	
金城 "	一九三三年	華成	共同租界北京路七八〇號	
金都 "	一九四〇年 十二月	陶壽孫	福煦路同學路	
大上海 "	一九四〇年	柳中浩	藝華	
張善現	各映畫 公司共 資同出	金右	國華	
合公司	中國聯	全右	"	
"	虞洽卿路	南京路虞洽卿路	福煦路同學路	

映 藝 館 一 覧

203

		館名		所地		經營者		備考	
卡爾登	平 安	巴 黎	麗 都	大 上 海	國 泰	南 京	大 光 明	靜 安 寺 路 二 六 一	亞洲影業公司
旅 克 路 二 一	靜 安 寺 路 二 九 三	福 煙 路 七 四 五	霞 飛 路 五 五 ○	貴 州 路 二 三 九	虞 治 卿 路 五 ○ ○	霞 飛 路 八 一 六	愛 多 亞 路 五 二 三	何 挺 然	米 北京路アナサンス館
吳 性 敦	黃 少 培	馬 長 生	郭 守 華	" "	" "	" "	" "	上 國 別 映 藝 取 器 設 備 斯	
外 外	夜 間 演 戲			外 中		" "	" "		

新 新	先施樂園	天韻樓	遊樂場	大世界	黃金宮	璇宮	辣裴	杜美	榮金	山西	明星
南京路七二〇	南京路五八〇	南京路六三九	愛多亞路	滬西大滬	愚園路口	愛多亞路成都路浦東大廈	辣裴德路三二三	杜美路	康悌路二	六馬路雲南路二四七	光明華
新 々 公 司	先施公司	永安公司	胡世保	陳偉顯	諸文元	吳邦藩	裴拉享	任天經	徐公偉	徐紫峰	張石川
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	多クアル劇場ノ一部 映畫演劇ヲ交互ニ	廿年一月廿五日	中外映畫演劇ヲ交互ニ	中外	"	"	"	中外

大新遊藝場	南京路八三〇	大新公司	中外
共舞台大戲院	愛多亞路	張善琨、張培蘭	夜間演劇
金光	寶山路	季固周	"
滬西中華	曹家渡五角場	中華電影	"
百老匯	匯山路	徐志岩	"
威利	乍浦路	徐志	中華電影
南市中華	南市西門方濱橋	樂潤庭	中外
萬國大戲院	熙華德路三六七	中華電影	中華電影
匯山大戲院	東百老匯路一二〇	王文碧	中外
東海大戲院	茂海路一四四	吳茂葆	中外
大福佑	福佑路	鄭鳳州	中外
愚園路三〇八		朱文元	"

租界に於ける支那演劇界の現狀

現代支那の新演劇運動はあらゆる文化運動と共に民國八年五四運動を経て、慚く社會的基礎を獲得したのであつた。二十年來の中國新演劇運動を顧る時に、その主流が反日本帝國主義的運動であつた事は否定出来ない事實である。この思想的背景を求める所とすれば先づ五・四運動の社會的解剖にもどらなければならぬ。五・四運動を経て民國十四年の反帝運動として燃え上つた五卅事件は民族統一戰線を形成する動機となつたものでこゝに新演劇運動は反共反日の嵐の中に中國劇界の統一戰線を方向づけるものとなつた。この反日運動は民國廿年九・一八事變以後は更に強化され、演劇運動上の反帝運動の對象は判然と日本に向けられたのであつた。民國十九年に成立した、左翼戲劇家聯盟（民國廿五年春解散）はこの期に活躍し、その指導に依りて多人數からなる新劇團が出來た。民國廿五年の演劇界は一步を進めて國防戯劇の提唱となり、文化戰線の救亡爭鬪に參加することとなつた。同時に戯劇の大衆化が再提起されたことは言ふまでもない。民國廿六年七・七事變勃發後、演劇界は抗日統一戰線の具體化として、中國全國戯劇界抗敵協會が成立し、日支事變の深刻化と共に中國に於ける演劇運動は、長期抗戰、或は抗戰建國國民精

神總動員のための民衆指導の唯一最大の武器として、國民政府はあらゆる機關を總動員して援助指導し、演劇工作員の獻身的運動と相挨つて、一般民衆の間に浸透して行つたのである。

古來支那の民衆が非常に芝居好きであると言ふことが他の文學面に比して抗戰期に於ける宣傳の上に戯劇運動が、廣汎なる民衆獲得のために想像以上に行亘り、しかも相當の效果を擧げてゐるのである。

事變前の上海演劇界は中國演劇運動の中心であり、七、七發生の前後に於いて上海の演戲運動は遽に活潑さを加へて行つた。租界當局は刺戟的な戯劇の上演に禁止を加へてゐたが、これに對し、劇作者協會、映畫會その他二十餘團體で「撤銷租界戯劇電影檢查會」なるものを組織し積極的態度に出たのであつた。

八、一三事變當時は、上海戯劇運動の中で記憶すべき事は中國劇作者協會二十餘名の集團製作になる「保衛廬溝橋」を上海城内（南市）で公演された。その後上海話劇救亡協會が組織され、上海文化界救亡協會と共に文化的抗戰の一翼を擔つたものである。同協會は戰時的に劇人の編成されたものであつて、支那軍の上海敗退と共に奥地に移動を開始、奥地抗戰演劇運動の先緒をなしたものであ

る。斯くして、上海に於ける演劇活動は一時頓座した形であつたが殘存文化人に依つて、民國二十七年一月青島劇社の成立を見、引續いて、各種小劇場、星期劇場が續出するに至つたこの青島劇社は上海劇壇復興の魁を作つたのであつたが、内部の紛糾のために僅か三四ヶ月で解散し、同社のメンバーに依つて、再びその後を繼いで五月十日曉風劇團及上海藝術劇院(解消)の成立を見るに至り、二十七年八月中旬經濟的原因のために解散した。二十七年七月に至り現在辣斐劇場に根城を持つてゐる上海劇藝社が成立した。(本統の活動に入つたのは民國二十九年からと見ていい)その後順調な發展を遂げ藍蘭、夏霞、舒適等の勝れた俳優を育て上げ、民國二十八年十二月奥地より回滬した唐槐秋の率ひる中國旅行劇團(中旅劇團と稱して璇宮劇場で公演)と共に上海に於ける代表的劇團となつた。この二つともすべての點に於て往年の新協新築地に比すべきものであらう。當時前明星の映畫監督だつた沈西苓は演劇の改進に關して次のやうな意見をのべてゐる。

「健全な通信網とその機關が必要だ。これは上海戲劇家協會の中に附設できる。かくして各地との情報と劇本の交換が出來、各劇團の順

調査の發展を得さしめ重複出演を防ぐ。

二、劇本を一にその性質に依つて分類し、各劇團の出演する戯劇を調査し、整理を加へればならない。そうして最も適當な觀衆對照に組織的に有効に案排しなければならない。

三、各劇團は劇本の缺乏を訴へてゐる。多くの文化合作者や劇作家は上海を逃避したことは事實だ。各劇團には作家の人材に乏しくないから此際速に集團的な創作をする習作會、若しくは訓練班を發起すべきである。

四、演出指導者が不足してゐる。この現像は最近になつて特に著しくなつた。多數の劇團から全部の人員が來ることは妥當でなく必要もないから各劇團から一、二人を徵求してこの仕事に當らせ擔當者は集つて一つの演出研究會を組織する、斯くすれば一ヶ月後には各劇團は獨立の精神と能力を有することが出来るだらう。（西村氏編、蔣介石政權の宣傳より）

とあり以て演劇改進の一端を伺ひ知れるであらう。

沈西苓の改進の辯の中にある如く「劇本の缺乏、演出指導家の不足」は

現在の上海演劇界の現状にその儘あてはまるのである。即ち古心は正言報紙上に於て「最近恰も雨後の筈の如く業餘小劇團が成立しだが劇本の缺乏が著しい上海に於ては専ら通俗的な時代物を出演する結果になり劇團の前途は幾多の困難がある」と述べて居る。

斯くの如く今次事變に依り演劇人の奥地逃避を招來し、上海演劇界も孤島的現象を現出するに至つて居るが、再建を計らんとする彼等の意圖は多數の劇團の成立、等にも見られるのである。又思想的に見れば上海演劇界は依然として奥地抗戦演劇運動と密接な關聯の上に立つてゐる。そのことは上海に於ける演劇關係書籍に盛られた奥地演劇活動の報告、論文等が大きく扱はれてゐる事に依つても伺ひ知れるであらう。又人的にも奥地との交流が相當行はれてゐると云ふ事實はこれを物語つてゐる。特に職業劇團の勃興と共にこゝで指摘すべきことは上海演劇運動に於ける學生演劇運動の占めつつある役割である。學生演劇運動は新劇運動發展過程を通じて常に盛んであった。現代の支那演劇界に於て俳優、演出家、劇作家の殆んどが學生劇團から育つたものであり、學校劇團を除外して演劇運動を取り上げることは出來ない。且又それ等が實際に果しつ

つある宣傳的啓蒙的役割についても誠に大なるものがある。

上海に於ける各大中學校の大半が學生劇團を組織し業餘劇團（アマチュア劇團）との密接な連絡の下に活動してゐる現狀である。

斯くして上海に於ける新劇運動は大抵學生だのアマチュア好劇家の團体から發生したのであるが、無論今日でも上海の新劇アマチュア劇團即ち業餘劇團と稱すべきものは幾十指程あるが、定期的の公演はなく招聘に應じて公演してゐる。然しながら學校劇團を中心とした學生の宣傳的啓蒙的活動は別の面から見逃すわけにはゆかないのである。

次に一九三八年二月成立した星海劇社（學聯）の組織及びその目標を掲げ學生演劇運動の動向を一瞥して見よう。

「宗旨」

イ演劇を通じて反封反帝國主義を目標とする大衆教育、被壓迫階級への同情と反抗鬪争の勇氣を鼓舞する。

ロ民族綜合藝術として演劇研究をなす。

ハ演劇を以つてする抗戰への參加、抗戰意識の強化並びに難民救濟と兵士の慰安をなす。

二 組織の目標

演劇運動を擴大し、各校に戲劇幹部を養成、且、各學校間の學友に親睦の氣運を醸成し、劇運動を通じて學生の團結を圖る。

三 現實の必要

孤島上海の劣悪な環境裡に於ては學生は去勢され、享樂に惑溺し、墮落する危險性が多い。學生の止むに止まれぬ、情熱を劇運動に向け、これを通じ民族的訓練を施す。

次に二大職業劇團並に主なる學生及業餘劇團を列記し、最近二三ヶ月中の主なる公演種目を掲げ大体の傾向をのそいで見よう。

(學生劇團のうち中等學校（男女）の劇團は省略した。相當規模の中等學校は大半が劇團を組織してゐると見て差支へない。判明するのみで二十四劇團を數へる)。

職業劇團

公演種目

上海劇藝社

辣斐劇場に於て「邊城故事」袁俊編劇佐臨導演
 「牛郎織女傳」（三週年紀念作品同じく曹禺改
 編、洪漠導演「鍍金、求婚」を公演。

中旅劇團

該社は昨年舊正月巴金作、吳天脚色の「家」を
 公演好評を博した。

天宮劇場に於て干伶編劇唐槐秋導演の「葡萄美
 酒」（五幕喜劇）更に天蟾舞台に於て曹禺編劇
 唐槐秋導演の「日出」及顧仲彝編劇、唐槐秋導
 演の「新梅蘿香」を公演。近く公演予定のもの
 に如舒煙の「董小宛」顧仲彝の「聖貞德」陳素
 中の「父子之間」がある。

學生劇團一覽表

最近公演種目

『上海戲劇學校劇團』	黃金大戲院に於て一二九次公演「鐘鳴嫁妹」一 三〇回公演「紅鬃烈馬」
『震工劇社』	震旦大學工理工學院。
『十字劇社』	九月六日由吳似導演、徐渠編劇「生意經」を震 旦大學院禮堂に於て公演（孤島企業家の暴露劇 醫學院及各大學の學生の組織するもの）。
『華夏劇社』	今春辣斐に於て實驗演出、十月中旬曹禺の「原 野」をト萬蒼指導下に公演の予定。
『復旦劇社』	大中學生劇研究家の組織せるもの。
『復旦大學同學會』	九月一日更新舞台に於て「守財奴」を公演。
『交大劇社』	交通大學
『土蜂劇團』	滬江大學滬東公社合同
『大夏大學話劇團』	大夏大學
『大同大學劇團』	大同大學

中 契 劇 團

東吳大學

光 華 劇 社

光華大學（青年會中心のもの）

一 星 海 劇 社

上海市學生聯合會

一 華 光 戲 劇 學 校 劇 團

華光戲劇專修學校

一 中 法 劇 團

中法工學院

一 新 春 秋 戲 劇 學 校 劇 團

新春春秋戲劇學校

業 餘 劇 團

一般好劇家音樂家の組織せるもの。

民國二十九年成立、本年七月第一回公演、俄國藝術劇院に於て「黎明之前」八月十五日「雷雨」及「群鶯亂飛」を公演。業餘劇團中その發展を期待されてゐるもの。

璇宮に於て費穆導演「清宮怨」を公演近く「淘金記」公演を報じてゐる。

一 天 風 劇 社

一文 濱 劇 團

大中華劇場に於て「燕姑娘」「珍珠塔」「月影情絲」を公演。

一火 炬 劇 團

演員募集中

一沉 鐘 劇 團

俄國劇院に於て一週年紀念公演として干伶編岳

一中國聯合劇藝社

穆導演の「花濺淚」を公演。

一上海滬劇社

東方に於て「雷雨」を公演。

一篠 露 劇 團

皇后劇院に於て胡知非編劇戈戈導演の「風流寡婦」戈戈陳明勳編劇、夏天舒適導演の「風波亭」黃魯編劇陳明勳導演「生死戀」王雅琴領導「上海屋簷下」戈戈編劇「女看護」を公演。

一上海話劇社

嚴篠霖の出資による劇團、蘭亭名譽社長。璇宮に於て第一回公演「日出」

一越 華 劇 團

皇后劇院に於て蔣青編劇、喬奇導演の「雙妹淚」を公演。

一戈 戈 編 劇 團

戈戈編劇、張石川導演「大家庭」を龍門大劇院に於て公演。同じく戈戈編劇の李萍倩導演「新

牛郎織女」公演。

一 藝 聲 劇 團	一 藝 星 劇 團	一 藝 藝 社	一 導 風 劇 社	一 勝 利 劇 社	一 青 雲 劇 社	一 中 國 實 驗 劇 社	一 激 流 劇 社	一 施 家 劇 團	一 永 安 劇 團	一 青 年 劇 社	一 青 海 劇 社
辣斐に於て八月三十一日第一回公演「劔子手」 「惜分飛」「鬧鐘」	東方話劇場に於て「財狂」（諷刺喜劇）を公演。 俄國藝術劇院に於て「生檜死別」を公演。	九月初旬「狂歡之夜」を公演の予定。	俄國藝術劇院に於て九月一日第一回公演「再生緣」 璇宮に於て「花開花落」九月十四日。公演の予定。	俄國藝術院にて「新梅蘿香」を公演。	新公司附設新都に於て「小孟麗君」を公演。	永安公司	儀國藝術劇院に於て「大乃馨」夏風導演にて九月 二十日公演	儀國藝術劇院に於て「女性的解放」九月廿一日公演	辣斐劇場に於て「女性的解放」九月廿一日公演	儀國藝術劇院に於て「大乃馨」夏風導演にて九月 二十日公演	儀國藝術劇院に於て「女性的解放」九月廿一日公演

一 時代戲劇社

一 建光劇社

一 綠野劇團

一 歲寒劇社

一 持志劇社

一 鎔鑪劇社

一 合力劇團

一 銀河劇團

一 天下劇社

一 三 星 業 餘 戲 劇 研 究

一 夏 鐘 劇 社

一 鶯 音 劇 社

一 海 燕 劇 社

一 大 鐘 劇 社

一 東 山 業 餘 文 學 劇 社

一 青 峰 劇 社

一 雪影劇團

其の他同業者に依つて組織せるもの。

一 交 誼 社	上海業餘戲劇交誼社
一 中 青 劇 社	八仙橋青年會中心（聖青、知行兩劇團の合団せるもの）
一 女 青 劇 團	女子青年會戲劇組
一 藥 聯 劇 社	藥業業餘聯誼社
一 影 聯 劇 團	國華影業公司（張石川指導半職業劇團）
一 工 華 劇 團	工部局華員俱樂部
一 職 婦 劇 團	中華職業婦女俱樂部
一 精 武 劇 團	精武體育會話劇組
一 互 助 劇 團	中華婦女互助會
一 銀 錢 劇 團	銀錢業業餘聯誼會
一 舞 業 婦 女 劇 團	舞業婦女聯誼會
一 上 海 業 餘 實 驗 劇 團	中美讀書俱樂部
一 未 名 實 驗 歌 劇 團	梅熹指導のもの。

一保聯劇社	保險業業餘聯誼社
一印聯劇社	印刷業聯誼社
一益友劇團	益友社
一華聯劇團	華聯同樂會
一綢布業劇社	綢布業業餘聯誼社
一春蟬劇社	星々影藝社

次に上海に於ける舊劇の現狀を見よう。

元來舊劇は一般中國民衆の間に深く浸透し、その觀客層も映畫新劇に比較して比較的文化水準の底い下層階級から上層階級に屬する商人の間に絶對多數を占め、最も親しみ安い娛樂的な役割を果し來つた。

舊劇の改革が叫ばれたのは辛亥以來であつて、その後改革の氣運が盛んになつたが具体的な方法は取られなかつた。

抗戰開始以來文化界の全面的統一の援助の下に舊劇は改革の好機に遭遇したのであつた。話劇界救亡協會が戯劇界救亡協會として擴大するに至り一部の舊劇界の青年を動員する結果となつた。舊劇改革に最も努力せる指導

者は田漢、歐陽、予倩等であつて、舊劇が依然として民衆の間に絶対多数の愛好者を持つてゐると言ふ、現實は新劇の大衆化を圖る上に於ても非常な困難があると言ふので大衆に入り易い舊劇に新しい時代精神を注入し、舊劇中に含まれる反動的封建思想に代へるに新しい政治理念、民族意識を以つてすることが唱導され來つた。歐陽予倩はこの事に關して次のやうに言ふ。

「舊劇の同人が演劇救亡運動に參加したことは絶大な意義をもつ。吾々は下層民衆が聽くこと、見ることに慣れた二簧戲の形式を利用して、抗戦救亡の意義を宣傳し、理解し安くならしめねばならない」と（救亡月報所載）「起來舊劇的同志們」然して又選擇の標準を民族戰爭の利益の上に置くべきであると。更に又予倩は次のやうな缺點を舊劇から取除くべきであるとしてゐる。

一 舊劇に於ては意識上に民間の涙苦や社會の缺陷の原因を土豪劣紳と貧官汚吏の類に求めるることは出來ない、従つて只局部的な救濟を圖つて、全体の改革を忘れる。

二 大事變や政變のある場合に何時も圖譏の説明が定石である。例へば

農民の叛亂の起つた時、大屠殺は常に「星宿下凡收人」と解釋せられる。野心家は政權を奪ひ、常に「眞命天子出世」と尊ばれる。それと同時に數千年來の封建的主従關係は「各爲其主」とか「得人錢與人消災」とか言れ出鱈目な奴隸思想を養成する。

三、男女關係に關しては、女子は男子に絶對服從することを宣傳する。金持は多くの妻妾を取ることを當然と心得正當な戀愛は却て誨淫と認められる。（西村捨也編「蔣介石政權の宣傳」所載譯を轉載）

以上の予情の意見に依つて抗戰期中の舊劇の改革の一面を伺ふことが出来よう。然しながら斯る掛聲が抗戰期中に於て盛んであつたにも拘らず依然として舊劇が舊態依然たる蠶民衆の間に多數の觀衆を獲得してゐると言ふ事實は改革の完全な失敗を物語るものであつて、その原因は舊劇の構成並に觀衆の構成のうちに求め得られるであらう。これについては後に一言しよう。

現在上海に於て演ぜられてゐるものを持げると大体次の如くである。

一、京 戲（二簧皮劇）一名平劇と云ひ、日本の歌舞伎に相當するもの
北京を本場として、支那全土に愛好されてゐる。樂器は大鼓、鼓板、大鑼

小鑼水叉、胡弓二胡三絃、月琴等を用ひる。最も歴史も古く大衆に親しみあるもので、俳優の出身地に依つて海派と京津派とに分かれて居るが、京津派の劇壇に於ける勢力は確固たるものがある。

文明戯や申曲の流行に従つて、京劇の變質が要求されるに至つたが、これに依つて生れた「本戯」がある。これは現在中途半端な劇に脱してゐるが、移風社即ち麒麟童の一派は舊來の京劇の本質を尊守し、舞台裝置を新劇に學び多大の觀衆を保持し來つた。(麒麟童は自身名俳優であり演劇理論家である)

二 紹興劇 一名越劇とも言ひ、紹興人に依る芝居で樂器は京劇に同じである。上海が浙江人に依つて開拓されたと云ふ事情に基いて一時相當の流行を見た。女優の出演が多いことが人氣を得て居る理由とされて居る

三 廣東劇 廣東劇も相當の觀衆を持つてゐる。劇場としては大中華劇場のみであるが一時相當の流行を見た。

四 文明劇 日本の新派に相當するものである。科白は上海語を用ひてゐる。前清の末葉に興つたもので相當の觀衆を持つて居る。

五 楊 州 劇 維揚劇とも云ふ。

楊州の芝居で樂器は二胡、四胡、鼓板等である。觀衆は非常に極限されて居る。

六 甬 劇 四明文書とも云ふ。寧波の芝居で、小鑼、鼓板、大鼓、二胡

箏、打琴、琵琶等を用ふ。

七 挑 子 戲 山西省の芝居で一名秦腔とも言ひ樂器は京劇に同じである。

八 踊々 戯

北支渾州に起つた芝居で樂器は京劇に同じで、其の曲調

九 申 曲 約三十年前に勃興、京劇に次ぐ勢力を持つに至つてゐる。然

しその取材は多く家庭の瑣事を探り、卑猥に亘る點が多いとされて居る。この缺點を補ふものとして「文化申曲」が生れ、京劇や映畫から取材するようになつた。

以上が大体上海に行はれて居る舊劇であるが、俳優相互の救濟及聯絡機關として上海伶界聯合會がある。それは光緒年間に上海梨園公會が組織され俳優の救濟、遺族の扶助を主な仕事として居たが伶界聯合會に改組後、實質上劇壇を指導する地位に發展した。

現在事務所は共同租界馬鞭路趙如泉宅に置いて居る。主席委員は共舞台社長陳月樓で、執行委員三十九名と傳へられて居るが、最も實力を有するものは趙如泉（共舞台）周信芳（卡爾登大戲院經理）李春利（前主席青幫大字派）等である。最近の新聞の報するところに依れば、伶界聯合會は福利公積立金委員會を組織し、失業會員に給金を用立てたり、非常の場合に備へる爲に毎月會員から積立金を徵收する事になつた模様で八月分から始めて二ヶ年後には十萬元となる見込であると。執行委員は如泉を始めとして、共舞台、天蟾舞台、大舞台、黃金大戲院等の經理統の人物を網羅し、劇壇に絶對的勢力をもつてゐるのである。

劇團

この戯劇研究家（票友と稱する）には知名な實業家や政治家が非常に多い。たとへば前上海特別市商會主席王曉籟、航業公會主席袁履登、褚民誼、江一平等である。新劇に於て、業餘劇團の活動の占むる役割も甚だ大である如く舊劇に於てもその關係は全く同一である。舊劇に改進の跡が見られないのはこれら研究家（票友）がもつ思想的立場にも一つの原因が

求められるであらう。

この票友は上海だけで數千人と推定されてゐるがこの票友の組織する劇團（票房）は凡そ次の如きものである

正 誠 社 南京路五三弄一號（責任者王金元）

冠群票房 傅租界敏体尼蔭路一五二號

聯 誠 社 愚園路一二〇四號

利 匿 廬 跑馬廳路七七號

升 益 友 天津路

華 湖 集 社 南京路三五〇號

（梵王渡俱樂部）貴州路二六三號（責任者沈澤春）

集 益 社 南京路三五三弄一號

榕 榕 社 南京路一二〇號

新廬俱樂部 天津路五三〇號

普 緣 社 蒲石路三六六弄十一號

樂 天 集 北京路八一九弄四號

憩蘭

廬集

福煦路四九號
白克路一六號

恒社

佛租界馬浪路

雅歌

集

南京路

毛羽朋票房

勞合路八一號

陳仰鄉票房

貴州路一六〇號

孫寶慶票房

愚園路二三八號

佛租界華員俱樂部（責任者曹炳生）

この他同業者で票房を組織してゐるものは次の如きものである。

保險業業餘聯誼會
愛多亞路一六〇號

錢業聯誼會
南京路二三四號

上海扶輪社
江西路一八〇號

上海青年戲劇俱樂部
崇明路八二號

上海航運俱樂部
廣東路九三號

（最も政治的に勢力のあるもので、責任者杜月笙。この外に
杜月笙香港逃避後内部的に動搖した模様であるが研究
は繼續されてゐる）

跑馬同人俱樂部

馬霍路二四九號

中央銀行俱樂部

南京路七三一號

華聯同業會

南京路一九四號

右の十八社で冠群票友聯誼社は最も多くの票友を持つてゐる。これに次いで正誼社、集益社で今尙六七十名を算する。その他越劇團としては既天星越劇團がある。（最近九星大戲院に於て恩愛村（夫婦之道五幕）古裝喜劇を公演した）

次に六大劇場に就いて最近の主なる公演種目を擧げて見よう。

	黃金大戲院	呑吳恨、楊家將、討漁稅、三娘教子、珠簾峯、四郎探母、法門寺、洪羊洞、
	更新舞 台	新西遊記、鵲橋相會、雷殛花蛇怪、明未忠魂、太平天國
金鏡記下舞台		天河配、閻瑞生、武卿侯、走麥城、白蛇傳、
榮記共舞台		怪俠歐陽德、大鬧一洞天（趙如泉主演）、麥城昇天、就是我、

以上上海に於ける舊劇界の大体の現状を素描し來つたが、元來舊劇の觀客層は民衆の間に上下を問はず非常に行亘つて居るのであるが、大体に於て知的水準の底い中等學校以下の範導に屬する人々（主として商人とか店員）が最大多數であつて、學生、會社員は新劇乃至映畫に吸收されつゝある。京劇の觀衆は強いて區別するならば資本家、商人が主要なものであるが、京劇が壓倒的に盛んであるとの理由は觀衆としての組織を持つてゐることである。即ち京劇習得の機關としてのアマチュア劇研究團（票房）の存在こそ觀衆構成の單位であると見做し得られる。票友はそれ自身俳優であるばかりでなくよき觀衆であり又觀衆の勧誘者であると言ひ得られる。

こゝに特に注目すべきことは劇場主、俳優より觀衆としての劇愛好家に至る迄帶と密接な關係をもつて居るのであつて、こゝにも又舊劇のもつ社會の一斷面が見られる。特に劇場主は劇團に對し絶對的な權限を以てゐると言ふ事實は見逃し得ない。

長い間、民衆と共にあつた支那劇の魅力はその觀衆の上にあまねく浸透

し、支那民衆が封建的色彩の濃い民間故事をとり入れたものを好むと言ふことは彼等が封建的意緒を多分に有することとの反證でもあるが、こゝに又舊劇の傾向がそれらの觀衆對象の上に自然商業主義的傾向から脱しきれない理由が存すると思はれる。斯くの如き狀態下にあつて、幾度か改革が叫ばれつゝも概して舊劇は神怪ものゝ上演を主とし娛樂本位のものが最大多數であつて、新劇活動の如く啓蒙的宣傳的圖企は殆んど見られないと言ふのが現狀である。

劇場名	地址	經理者
X○黃金大戲院	佛租界八仙橋	金延孫
○更新舞台	牛莊路浙江路	董兆熾
X○金鑑記大舞台	佛租界愛多亞路	張善琨
○天曉舞臺	九江路	范恒德
卡爾登大戲院	福州路	"
新都劇場	派克路	"
皇后大戲院	南京路虞洽卿路口	周信芳
東方書場	虞洽卿路	沈一濤
長樂大劇場	福州路(合資)大株主	合資經理
新樂宮	九江路大新街新旅社	章宗漢
卡德大戲院	卡德路新開路口(合資經理沈一濤)	主として申曲、文明戲
天津戲院	天津路香粉弄	主として申曲
新都大戲院	小沙渡路康腦脫路西	主として紹興戲
天香戲院	天津路香粉弄	"

南洋大戲院

佛租界打鐵濱

主として紹興戯

時代劇院

九江路大新街

(合資) 經理沈順生

老闆劇場

福建路

(合資大株主) 章宗漢

永樂戲院

北京路石路口

同樂大戲院

福建路宋家弄
(合資) 經理沈一

浙東戲院

北京路貴州路口

大來戲院

北泥城橋

通商戲院

福州路錢家塘

小廣寒

(合資) 經理吳桂芬

大中華劇場

福州路大中華飯店
(合資大株主) 章宋漢

綠寶劇場

南京路新々公司

廣東戲、申曲

文明戲

其他二流以下のものとして

大世界

愛多亞路

天韵樓

永安公司

大新遊樂場

大新公司

新 世 界 南京路

先 施 樂 園 先施公司

新々花園 新々公司

話劇劇場として次の二つがある。

辣	斐	佛租界辣斐德路
璇	富	愛多亞路成都路口

註
○印は青幫に加入のもの

×印は紅幫に加入のもの

State of Cultural Activities in Concession
of Shanghai

Research Institute for Municipal Adminis-
tration of Shanghai

Sep. 1941 Typographic Printing

234p In Japanese